

第1章「心理学の手始め」

- ・心理学とは→人間の心や行動について追究する学問

例：認知心理学、臨床心理学、教育心理学、など

あえて人間の心や行動について追究する意味

心を常に正しく把握しているとは限らないから→無意識的な領域の存在

例：記憶の変容→外的事象や時間の経過に起因

調査や実験を通じて人間の心や行動に関する客観的な事実を導く

全体傾向と個人差の狭間に対する意識の重要性（一概に画一化できるものではない）

心理学研究法（調査や実験など実証的手法・例：仮説生成・データ収集・統計分析）の重要性

- ・発達心理学とは→人間の基本的な心や行動の発達過程についての学問

特に乳幼児期の心や行動の発達過程について（視覚、ことば、心、常識、など）

人間な基本的な機能や事象の成り立ちや発達過程を知り諸機能や諸事象を本質的に理解する
発達（生涯発達も含め）の段階を調査・実験するときの手法

例：視線、行動観察、発達検査

「実証的な」根拠のある内容とそうでない内容との区別

re.1 『実験で学ぶ発達心理学』杉村伸一郎・坂田陽子

re.2 『心理学研究法－発達』山口真美・金沢創

- ・発達心理学導入

乳児 infant（1歳頃まで・2歳は含めない）

幼児 preschool children, young children（小学校入学前まで）

児童 children（小学生の頃）

（新生児 neonate は生後1ヶ月頃まで）

re.3 『心理学史への招待』

- ・発達心理学の概略史

子供を大人と同じように扱う（小さな大人）

例：ルソー「子供は心理的・社会的・文化的に大人と異なる」

例：ブライヤー『子どもの精神』

発達心理学が一般化したのは戦後から

- 例：ダーウィン 子供の観察記録・表情の研究（心と身体のリンク性）
 例：ビネー 実験的・知能検査の開発
 例：ゲゼル 成熟説・知能検査の普及
 例：ピアジェ 生物主義的な発達段階説・文化的・社会的な部分をあまり考慮しなかった
 例：ヴィゴツキー 社会的・言葉の重要性・教育との関係性の中で再評価
 例：ボウルビィのアタッチメント理論（物質面だけでなく精神面での満足）

cf. アタッチメント（愛着）→特定の他者に対する特別な情緒的結びつき

乳幼児期における子と親との良好な愛着関係が重要

ex. ハーローの実験（アカゲザルの実験→餌だけでなく接触・温かみ・応対などが重要）

ex. ストレンジ・シチュエーション法

他分野との交流（言語学・行動学など）・従来理論への批判と再考・研究手法の多様化進展
 文化差・環境差・個人差への注目→ピアジェの再検討・ヴィゴツキーの再評価（生涯発達）

・ピアジェとヴィゴツキー

4 段階発達説（ボウルヴィィ）

～2 ヶ月
 2～7 ヶ月
 7 ヶ月～2 歳
 2 歳～

- ① 人への関心（それが誰かという区別はない）→特に目や口（主に顔）への関心が強い
- ② （母）親への反応（不在への不安という感情はない）
- ③ 愛着形成期（愛着行動が活発化）→人見知りの発生
- ④ 愛着対象との身体的接近の減少（他者への愛着の拡張）（友人など）

初期の愛着対象は生物学的母親でなくてもよいが少ない人数との強固な関係が重要

cf. 3 歳児神話→子が 3 歳になるまでは育児に専念すべき（物理性を過度に重んじる）

発達理論（ピアジェ）

シエマ（認識の枠組み）

同化（シエマに基づいた情報の取り入れ）

調節（シエマの変更）

均衡化（同化調節の繰り返しの中で認識が次段階に発達）

発達段階説

～2 歳

- ① 感覚運動期→知覚と行動の間が言語を介さず結びついている

反射・自らの身体への行動・物への働きかけ・目的ある働きかけ・様々な試み・表象

表象→目の前にないものを頭の中で思い浮かべること（永続性の理解・延滞模倣）

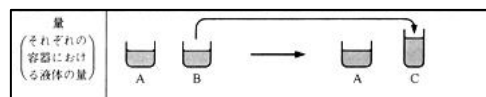
2～7 歳

- ② 前操作期→表象を行い象徴機能が成立する（例：バナナを電話に見立てる・ふり・ごっこ）
 言葉の発達とも大きな関係性（名詞→動詞・形容詞）

直観的思考（4 歳～）→概念に基づいた思考（見かけに左右されやすい）



cf. 保存課題→例：ビーカーの課題の実験（図）

操作・行為を内化して表象することはできない



7～11 歳

11 歳～

- ③ 具体的操作期→保存課題が可能となる（見かけに左右されず論理的操作・推理が可能）
（三山問題（) →別の角度からの見方の推理が可能）←この時期に完全性は保証されない
- ④ 形式的操作期→三山問題が可能となる、仮説演繹的思考が可能となる
具体性を伴わない問題を扱える（例：比例概念）



発達理論（ヴィゴツキー）

発達の最近接領域（自己達成可能な水準と他者援助により達成可能な水準のずれの範囲）

個人個人の指導の重要性を認識させた理論

社会的・歴史的に形成された「言語」を媒介とした他者との交流の重要性（精神間機能）


精神間機能から精神内機能への移行が思考を深める（精神内機能→言葉を通した自らの思考）

精神間機能における外言・精神内機能における内言・移行による外言と内言の分化

外言から内言への移行期には自己中心的言語が出現（例：独り言）

自己中心的言語は外言と内言の狭間（他者交流と内的思考の双方の働きを担う）

理論の具体性に乏しい

例：ワテの「パズル課題」（年少児への直接的援助・年長児への間接的援助（足場かけ））

発達理論（ピアジェ・ヴィゴツキー）のまとめ

ピアジェ…個人内の過程に着目、生物学的、社会文化については薄い

ヴィゴツキー…社会文化（特に言語）に着目、言語を通した他者との交流

新しい発達理論

例：生態学的システム理論（Bronfenbrenner）


環境は重層的な構造であるという前提のもとその環境と個人との相互作用に着目

（マイクロシステム、メゾシステム、エクソシステム、マクロシステム、クロノシステム）

例：心理・社会的発達の理論（Erikson）


自我の生涯発達（8段階のライフサイクル理論）、「危機」と「獲得」の繰り返し

（青年期における自我同一性＝アイデンティティの確立が特に有名）（文化差考慮は薄い）

例：生涯発達の理論（Baltes）

生物的要因と環境的要因のうち生涯における主要な要因（標準的要因）に着目

（年齢的要因（子供）、歴史的要因（大人）、非標準的要因（経年増加））

例：道徳性発達理論（コールバーグ） cf. アイゼンバーグの道徳性・向社会行動判断

アメリカ的視点、ピアジェを踏襲、3水準6段階説（慣習以前、慣習的、慣習以降）

文化差考慮が薄い（どの社会文化にも通用するわけではない）

cf. 心理学における測定と研究

生体反応、視線・眼球運動、行動、音声・発話記録、質問紙・面接

cf. NIRS 脳計測装置（ヘモグロビン変化測定）

縦断的研究（一人を経年的に追う研究）・横断的研究（多数の特定部分に着目する研究）

調査、実験、観察、検査、面接

第2章「記憶」

・記憶について

① 乳児の記憶…注視時間（馴化脱馴化法・選好注視法）

既視物に対する注視時間は短い・新出物に対する注視時間は長い

馴化脱馴化法→新出物の知覚

選好注視法→既出物と比較しての新出物への注視

cf. モビールの実験

延滞模倣→対象者の動作発言を時間を経てその対象者がいない状態で真似ること

例：吸啜反応（おしゃぶりなど）、暗闇リーチング

延滞模倣の可能期間

～6ヶ月（1週間以上）

～9ヶ月（1ヶ月弱）、

10ヵ月～（数ヶ月～半年）

② 幼児の記憶…再認・再生の確認（3歳児では8割程度の正解率）

顕在記憶（意識的な記憶）・潜在記憶（無意識的な記憶）

潜在記憶課題は可能だが顕在記憶課題は不可能な年代

手がかりによる誘導（そもそも語り口がまだ不十分な段階）

体験の意識的・回顧的な語り（エピソード記憶・自伝的記憶の成立）

幼児記憶の信頼性（4歳頃までは信頼性が低い→想像・誘導）

～3歳（数ヶ月以上前・断片的）、～6歳（一年以上前）

・記憶区分

顕在記憶→自覚的に思い出せる記憶（再認・再生）

潜在記憶→非自覚的だが表出する記憶

顕在記憶は経年で発達するが潜在記憶は保持性が高い（幼児でも成人でもあまり変わらない）

手続き記憶（操作）・意味記憶（言語発達）・エピソード記憶・自伝的記憶（自己認識・回顧性）

長期記憶・短期記憶、ワーキングメモリ

ワーキングメモリ（作動記憶）→短期記憶と認知処理

乳児の短期記憶…馴化脱馴化法（～半年・1個→～1歳・4個）→非言語的記憶

幼児の短期記憶…メモリスパンの課題→言語的記憶（乳児との連続性は不明）

乳児ワーキングメモリ→測定不能・未発達？

幼児ワーキングメモリ→リスニングスパンの課題

手続き・意味（潜在記憶）からエピソード（顕在記憶）への発達

・記憶のまとめ

乳児の長期記憶（馴化脱馴化・選好注視・モビール・延滞模倣）

短期記憶の発達・長期記憶の発達は1歳半以降に顕著、ワーキングメモリ測定は幼児期以降

・その他の記憶

① メタ記憶→記憶に関する認知活動・行動に対する客観的認知

モニタリング（記憶状態の把握）→顕在記憶の発達に伴う

コントロール（記憶に対する行動機能）→5・6歳以降に発達

記憶方略→記憶の意識化・メタ記憶の発達

リハーサル方略（反復）→7歳以降に発達

② 記憶と知識の体制化

スキーマ（一般化された知識・知識を構成するモジュール・変数（スロット）を持つ）

例：買い物スキーマ→買い物への一般的な知識・スロットは例えば品物や金額が該当する
スクリプト（一連の出来事のつながりとしての知識表現や枠組・順序まで含めた知識）

例：レストランスクリプト→「着席・メニューを見る・注文・食べる・会計」の流れ

第3章「視知覚」

・視知覚について

視覚検査→馴化脱馴化法・選好注視法（見えればより複雑でより細かいものを見る）

視力発達（生後3ヶ月0.01→4・5歳1.00）→十分な視覚経験が必要（眼帯×）

眼球運動→サッケード（瞬間的・強い予測性）、追跡運動（運動目標を追跡）

サッケードと注意→生後数カ月では固視点があるままでは他刺激へのサッケードが難しい

眼球運動は予測・注意と結びつく（生後数カ月はその点においてやや未発達）

奥行知覚→視覚的断崖・衝突回避実験

両眼視差（両眼に映る網膜像の差）、きめの勾配（遠近法）、運動視差

色彩視覚→馴化脱馴化法による馴化（色の4カテゴリー）、赤の知覚は早期発達

新情報・複雑性・顔が視知覚の対象（選好注視）

cf. 顔ニューロン cf. 相貌失認

顔の知覚→特に口と目

知覚の恒常性→網膜への映り方は変化しても形状や模様などの認識は恒常的（2ヶ月以降）

例：ある対象への視知覚実験（距離の変化・角度の変化）

cf. 斜視→両眼視機能の発達に影響（片目で対象を見ようとして両眼の視線が揃わない）

cf. 弱視→はっきり見られない状況が続く視力発達が抑圧される

第4章「コミュニケーション」

・乳幼児コミュニケーション

乳幼児のコミュニケーション→エンタテインメント（同調・模倣）

二項関係→ある1つの対象に働きかけを行うとその対象以外に注意が向かない

三項関係→ある1つの対象に働きかけを行ってももう1つの対象にも注意が向く

視線コミュニケーション

① 共同注意（人の視線を見て自分の視線を決定する）

② 参照的注視・始発的共同注意（人に視線で働きかけ視線を決定させる）

③ 社会的参照（人の視線を見て相手の対象への見方を推察する）

③-1 社会的参照と視覚的断崖→恐怖心における社会的参照を通じた判断

③-2 社会的参照と発達障害→人の視線を見られるかどうかの判断材料

視線コミュニケーション・指差しと言語発達→他者の伝達意図の理解・自分自身の意図の伝達
言語的なラベリングに有効→言語発達に寄与

即時模倣→相手の行動の直後の模倣（行動感情への共鳴）・社会的コミュニケーションの基礎

模倣・視線コミュニケーション・想像的遊び→人間的コミュニケーション

幼少期の社会性発達とも関連（サル類やチンパンジー類との差異）

cf. 自閉症→共同注意や模倣が得意でない

同調模倣・視線注視・指差し（身振りコミュニケーション→音声コミュニケーション）

・音声聞き取り

音声聞き取り→抑揚・低テンポ・高音（マザリーズ・童謡）、早期からの音の区別

マザリーズ→抑揚のあるゆっくりとした話（聞き取りやすい）

大人の子供の扱い→無意識的な音声調節

胎児期の音声聞き取り→音環境・韻律は保たれ（内臓・雑音・音声）母声を繰り返し聞く

例：暗闇の部屋での視線と音声・音声変化に伴う視線変化

母語を聞くのに適した耳→6～8～10ヶ月頃に母語の語りズムに反応・母語音声の区別

母語単語の切り分け→何度も聞いた単語の選択的聞き取り

単語の切り分け（英語）→強弱（アクセント）・音節推移（語頭語尾）

音声知覚の発達（母語音声システム）→単語の境界・単語の切り分け・単語と事物

音声理解→関連付け（名詞・動詞）・マッチング（言語化以前に単語理解は始まっている）

音声発声→身体運動の同期・クーイング・喃語・初語（身体運動の同期と喃語との関係性）

喃語→喃語の言語間差異（母語音声に適した喃語発声 **例**：イントネーション・延長音）

cf. 喃語と笑い→テンポの一致

まとめ：単語の切り分け・母語の韻律的特徴や音の把握・音声発声（喃語→初語）

・言語学習

言語学習→即時マッピング（言葉と事物との対応関係）・般用基準

マッカーサー乳幼児言語発達質問紙・日本語マッカーサー乳幼児言語発達質問紙

① 単語発声

i 日本語乳児のオノマトペ（擬音語・擬態語）

ii 日本語乳児の名詞の少なさ・他品詞の多さ（英語圏は名詞が多い）

言語発達と品詞→名詞が有利・関係性を表す動詞は習得が困難（言語と事象の対応関係）

cf. 運動概念の取得→運動の不自然さを見抜く

② 名詞の獲得

i 事物全体バイアス（新奇の語を事物の全体概念だと仮定しやすい）

ii 形バイアス（似た形のものを同カテゴリーに仮定分類しやすい）

固有名詞的解釈よりもカテゴリー的解釈が先行する

事物全体バイアス：事物カテゴリーバイアス ↔ 形バイアス：相互排除性バイアス

cf. 固有名詞の獲得

既知の語に新奇の語が付与されたときにそれが固有名詞とみなされ得る

下位カテゴリーとみなされる場合もある

カテゴリー的獲得→既知と非類似ならば新カテゴリー、既知と類似ならば下位カテゴリー

既知との類似性→形、操作、機能など

語の階層性理解→上位カテゴリー学習はメタ知識の発達が前提

（メタ知識→知識に関する知識）

物質名の学習→流動的な変化が習得の壁になる（素材への意識はなかなか困難）

③ 動詞の学習

主体と客体、動作の範囲、文法学習との関係性

感覚様相間（モダリティ間）選考注視法 IPLP、的確な対応づけは5歳頃から

主体や対象が変数で動作と言葉が対応するという原則を理解し新奇の同土を推論

④ メンタルレキシコン

心的な語彙辞書（名詞は簡単・動詞形容詞は困難）

新奇の語を獲得すると既知の語の意味修正や再編成を行う

個々の単語と抽象的知識の間で意味・使用法・関係性なども網羅する

⑤ 言葉と概念

言葉をカテゴライズのラベルとして使いそれはしばしば概念となる

概念の階層構造（上位・下位）、境界は曖昧

プロトタイプ理論（ロッシュ）→典型（プロトタイプ）を中心とした概念の把握

分類基準→知覚的属性から機能的属性へ

概念獲得→概念の階層構造、基礎水準概念から上位・下位へ拡大し階層を形成

⑥ 語彙獲得

語彙数と性差→2歳で300語、2歳半で500語、女兒が早い

平均発話長 (MLU) →100 発話サンプルにおいて1 発話中いくつの形態素を含むかの指標

形態素→意味を持つ最小単位

言語発達→二語発話と助詞の発生

cf. 幼児コミュニケーション

「4歳までは応答が少ない＝独り言化」 ↔ 非言語的な発話・模倣応答

5歳以上は応答が多い＝話題の継続化

第5章「運動」

・第2章～第4章

エピソード記憶・スクリプト発達→4歳

視知覚→2・3ヶ月

コミュニケーション・記憶→10ヶ月

・乳児の運動形態

① 原始反射

生後4・5ヶ月までの反射、以降随意運動へ、残存は中枢性障害の可能性

例：バビンスキー反射→足裏をさすると指が広がる

例：モロー反射→急に下に下げると手足を大きく外に伸ばす

例：吸啜反射（きゅうてつ）→口にもものが触れると吸い出す

例：自動歩行 例：把握反射

② ジェネラルムーブメント (GM)

新生児期の自発的運動、早期障害発見において原始反射より有効

カオスの全身運動、様々な運動を包含し後に特定の運動に分化

ライジング（全身粗大運動・1ヶ月）、フィジエティ（屈伸・2ヶ月）

生後3ヶ月頃になると徐々になくなる傾向

→原始反射と GM は早期障害発見（中枢性障害）において GM の方が有効（困難だが）

（カオスのライジング・カオスのフィジエティが見られにくい）

第6章「乳児の発達」

・社会性の発達

① 微笑

自発的微笑→生理的で乳児の覚醒水準の低下で発生

社会的微笑→周囲の人の顔・声に反応して3ヶ月頃から発生、対人的関係の志向

② 愛着

分離不安→「everyone→家族・知人」の流れを経て人見知りの発生（7ヶ月～1歳半）

人見知り→特定の愛着ある対象から離れることへの抵抗

ストレンジ・シチュエーション法→分離不安の示し方から愛着形成を調査

例：A型（回避型・親との分離に混乱しない）

B型（安定型・親との分離に混乱しつつも再会後に安定）

C型（反抗型・親との分離に極度の不安を抱き再開後も不安定）

D型（無秩序型）→親子関係の非一貫性において見られやすい

③ 心の理論

言うなれば「心の理論」＝「人の心の推測」

誤信念課題（例）→一次的信念の理解

cf. 二次的信念→入れ子構造的な心の推測

例：AさんはBさんがCさんを好きだと思っている

④ 想像力

ふり、見立て、ごっこ遊び→想像力を発達させる遊び

乳児期の現実世界と想像世界の境界の曖昧さ

⑤ 性格意識

エピソード記憶・自伝的記憶の累積で4歳以降から発達

⑥ 永続性理解

目の前にないものでもそれが隠されているか一次的に

離れているだけということが理解できるか否か（例）

cf. 視線と行動の乖離（視線は向いている）

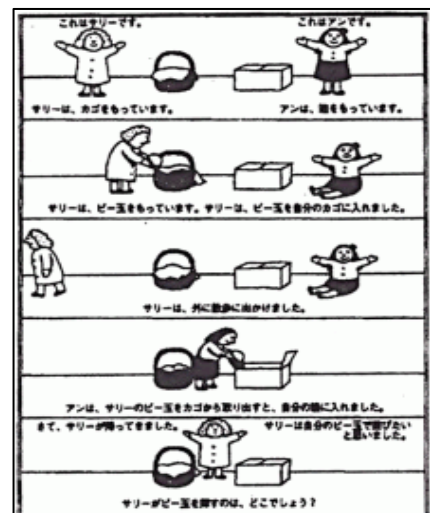
⑦ 数の理解

一つ一つの数の理解よりも大雑把な「量的」な捉え方

例：馴化脱馴化法（数の増減があった方により視線を向ける）

序数の理解

例：右のA・BでN番目がわかるかどうか



A	○	○	○	○	○	○	○
B	○	○	○	○	○	○	○

第7章「児童期」

・学習・教育との関連性が強い

① 認知発達

一次のことば（話し言葉や直接会話の言葉）と二次のことば（+書き言葉や公的言葉）

数の理解（(カウンティング)、min 方略、検索、分解手法）

min 方略→より大きい数を基準にそこから計数

検索→過去の計算結果の記憶

分解手法→数をより小さく分解して計算

国語・算数における繰り返し練習と基礎学力の獲得

自己認識と自己統制（自己評価と他者評価のずれ）

他者関係とリーダーシップの形成（閉鎖性の強い徒党集団）

学習発達との関係性（因果的推論能力→事象の共変性にもとづく因果関係の推論）

cf. 9歳の壁（学習遅滞の境界）→ことばのことば化、記号の記号化（抽象性・概念性）

道徳性の発達（結果論的判断から動機論的判断へ）

二次的信念の理解（**例**：アイスクリーム課題↓）

【メアリーとジョンは公園にいた。ジョンはアイスクリームが欲しかったがお金がなかった。アイスクリーム屋が「ずっと公園にいるから家からお金を持っておいで」と言ってくれたので、ジョンは家に帰った。しかし、アイスクリーム屋は気が変わって、メアリーに「公園で待つのはやめて教会へ行く。」と言ってそこを立ち去った。ジョンは、たまたまおじさんに会って教会のところに移動することを教えてもらった。一方、メアリーはジョンの家に行き、ジョンはもうアイスクリームを買いに出かけたを知った。この時メアリーは、ジョンはどこへアイスクリームを買いに行ったと考えただろうか。】

論理的思考（形式的操作期）、比例概念、仮説演繹的思考

将来展望（「あこがれ」から現実的未来志向へ）

② 児童期学習

既存知識との自発的な関連づけによる知識構造の形成と繰り返しによる手続化

目標設定と目標到達のための方法の思考

例の重要性（抽象概念とその体得とを結びつける）と自己説明（知識の一般化）

メタ認知の向上（認知に対する認知、わかりやすさ・未理解の認知）

第8章「対人関係」

・友人関係

① 相互的接近から内面への移行

ギャング・エイジのギャング・グループ（同類性の強さ・縦関係の強さ）

チャム・グループ（同調性の強さ・排他性の強さ）

ピア・グループ（異質性の認め⇔アイデンティティの確立）

ヤマアラシ・ジレンマ（親密さと傷への恐れとの間にあるジレンマ）（図）

集団規範（暗黙の規則・同調性の強さ・排他性の強さ）



② 人間関係と愛着関係

愛着理論（ボウルヴィ）の支持

親との安定的愛着関係により安定的人間観・自己観に関する内的ワーキングモデルが形成

愛着理論への補足→社会的ネットワークモデル

仲間関係は親子関係でなく社会ネットワークの中の相互作用や人間関係の中で形成

気質（ケイガンの仮説）→「気難しさ」（感情表現が激しい・生理機能が不規則など）

③ 中学生以降の対人関係

「浅く広く」から「深く狭く」

学習面での目標（遂行→接近・遂行→回避（外的評価重視型）、熟達・自己実現（内発型））

対人不安（対人恐怖）→他者視線・赤面・自己視線・自己臭

非行→同一性拡散の状態における否定的同一性の選択

心理的離乳（心理的自立・独立意思と依存心との葛藤）、第2反抗期（他律的から自律的）

④ 青年期の理論

漸成理論（エリクソン・ライフサイクル理論）→各発達段階の最大限の達成と移行

発達段階説→アイデンティティの確立とジェネラティヴィティ

発達の文脈主義→個人と環境の相互作用（ラーナー）、共発達の考え方

⑤ 自己認識

現実自己と理想自己（大学生で差が最大）

性差→理想自己と社会から期待されている理想像（ジェンダー的）との乖離

アイデンティティの確立課題→成人期におけるアイデンティティの崩壊と再確立

アイデンティティ達成・モラトリアム・早期完了・アイデンティティ拡散（マーシャ）

→危機の経験の有無・重要な人生領域への積極的関与の有無

二大選択→職業選択・結婚

モラトリアム→大人になるための猶予期間（「大人」とは→生涯的アイデンティティ確立）

青年期の親子関係→「分離・自立」という単純なモデルでは収まらない

⑥ 青年期の他の課題→ステューデント・アパシー、ひきこもり、いじめ、など（レジリエンス）

第9章「成人期以降」

- ・就職とキャリア発達

リアリティ・ショック（期待と現実とのギャップ）、バーンアウト（燃え尽き症候群）
→ワークライフバランス（職場環境の充実）

- ・中年期危機

cf. 成人期＝成人初期→中年前期→中年後期→定年退職期

中年前期・定年退職期に見られやすいアイデンティティの危機（老化・衰退・環境変化）
ジェネラティヴィティの確立（向次世代的生産活動）

- ・高齢期

身体的側面の機能低下

認知的側面の機能低下（流動性知能の低下・認知症発症）

認知的側面の機能向上（結晶性知能／社会的知能の向上・創造よりも反復馴化）

- ・ナラティブ（自伝的記憶語り）

精神的健康と自尊心に対する影響

ポジティブ記憶・ネガティブ記憶（救済シーケンス）→向上傾向

ネガティブ記憶（汚濁シーケンス）→下降傾向

第10章「文化差」

「認知発達研究の一般的共通性」と「文化社会が影響する領域（言語分野）」

ナラティブと文化的ライフ・スクリプト

心理Ⅱ

(10/3)

上原 泉

心理学とは？

- ・ 人間の心や行動について追究する学問

知覚心理学

認知心理学

発達心理学

生理心理学

社会心理学

臨床心理学

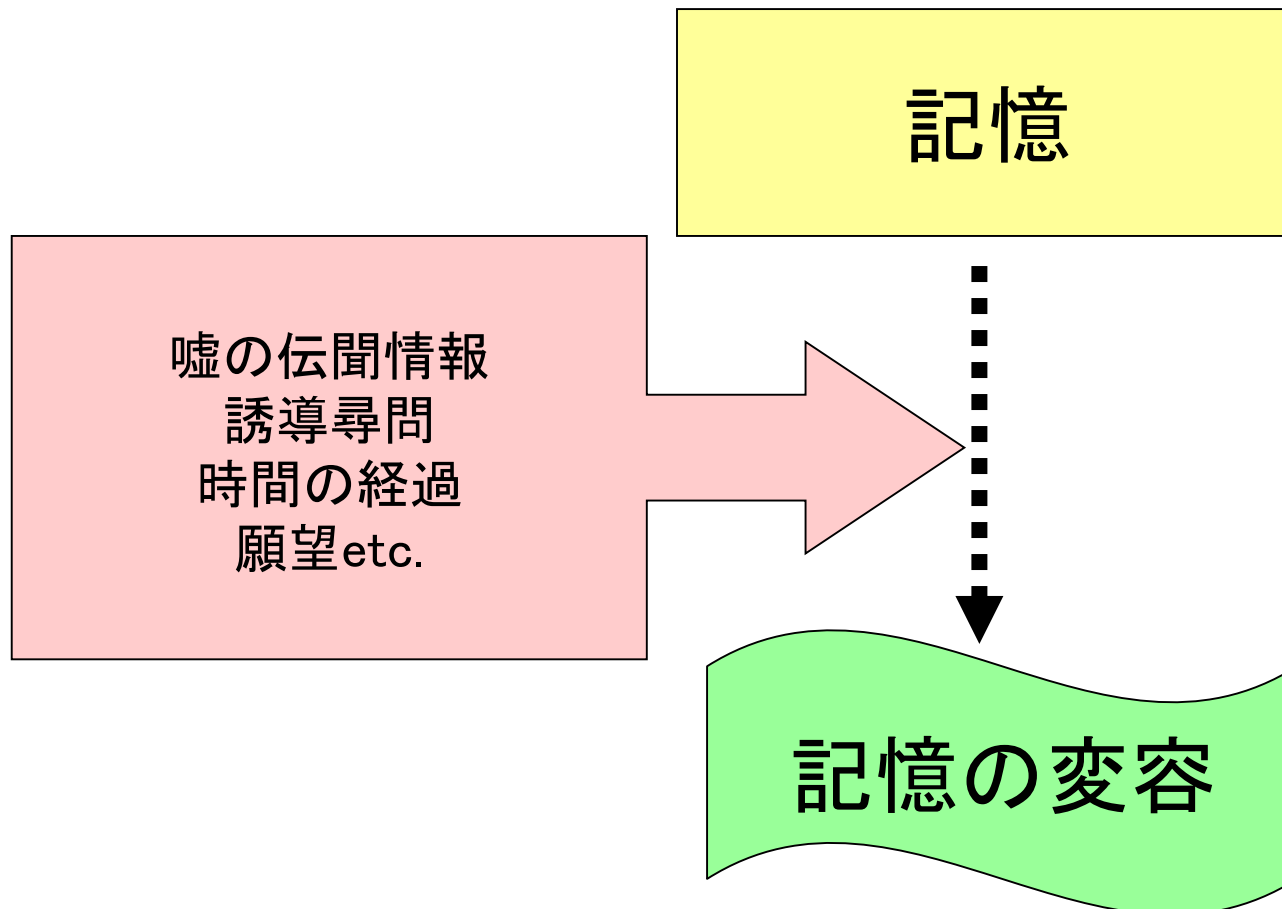
教育心理学

動物心理学

性格心理学

自分の心を正しく把握しているのか？

例：記憶はいつも正しいとは限らない。



自分（自分たち）の心や行動を，正しくわかっていて，実はよく理解していない。

直観のあやうさ，思い込み，誤った信念
無意識な心の働き，無意識的な行動

調査・実験を行い，人の心や行動に
→ 関する，客観的な事実を導くのが
心理学の役割！

心理学の難しさ

- 人は、自分(たち)のことをわかっているように実はわかっていない。
- 全体としての傾向 と 個人差
どの範囲の人の間で共有される行動パターンなのか。個人差への留意。

心理学の方法論(心理学研究法)

より客観的な知見となるためには、それ
なりの手続きを経る必要がある。

実証的な手法による追究(調査・実験)

仮説生成

データ収集

統計分析

講義のポイント

人間の基本的な心や行動の発達過程について学ぶ。

乳幼児の心や行動の発達を学ぶ意義は？

生後直後から大人のような物の見方や感じ方をしていないわけではない。

例：視覚の発達，ことば（音声）の理解，自分と他者の心の理解，道徳心，常識（判断の枠組）・・

講義のポイント

乳幼児の心や行動の発達を学ぶ意義は？

人間の基本的な機能や事象の成り立ち、
発達過程を知ることは、諸機能や諸事象の
本質的な理解にもつながる。

講義のポイント

乳幼児の心や行動を探る調査法や実験法
を随時紹介するのはなぜ？

言葉を話せない乳幼児の心や行動を調べる
には、成人とは異なる実験・調査・検査手法
をとる。・視線、行動観察、発達検査など。

講義のポイント

乳幼児の心や行動を探る調査法や実験法
を随時紹介するのはなぜ？

実証的に明らかになっている内容と、そう
ではない部分を把握するため。

（大人の心・行動以上にわかっていない
ことが多い。）

例：ことばの発達，運動の発達，心の発達
養育法？ 早期教育？

＊参考図書(方法論)

- ・「実験で学ぶ発達心理学」 金子書房
(杉村伸一郎・坂田陽子 編著)
- ・「心理学研究法－発達」 誠信書房
(山口真美・金沢創 編著)

発達心理学

年齢による区分

乳児（1歳or 1歳半未満，乳飲み子，Infant）

＊新生児(Neonate，生後約1ヶ月以内)

幼児（～小学校入学前）

Toddler, Preschool children, Young children

Four-year-olds. 日本での呼び方と英語の違いに注意

児童（6歳から12歳頃，小学生）

Children, Pupil(生徒), Boys and girls.

Elementary-school children, School boy/girl

Eight-year-olds.

発達心理学の流れ

- 大人と同じ扱い。小さな大人。
- ジャン-ジャック・ルソー (Rousseau, J.J.; 1712–1778)
子どもは心理的, 社会的, 文化的に大人と異なる。
- プライヤー (Preyer, W) 「子どもの精神」
(Die Seele des Kindes) (1882年)
- 「発達心理学」の名称の一般化
→ 20世紀後半

発達心理学の流れ

19世紀末～20世紀初頭

- ・ダーウィン (Darwin, C.; 1809-1882)

子どもの観察記録, 表情の研究。

- ・ビネー (Binet, A.; 1857-1911)

実験的な発達心理学。知能検査の開発。

* ちなみに, 1879年「心理学実験室」(ライプツヒ大学, Wundt, W.; 1832-1920)

発達心理学の流れ

第二次大戦前後

- **ゲゼル** (Gesell, A.; 1880-1961) の成熟説
- 知能検査の開発と普及。
- **ピアジェ**の出現 (Piaget, J.; 1896-1980)
生物主義的な見方。
- **ヴィゴツキー** (Vygotsky, L.S.; 1896-1934)
社会的な観点・・・→教育

心理Ⅱ

(10/10)

上原 泉

発達心理学の流れ

1970年代

- ・ピアジェの発達段階説
- ・ボウルビィのアタッチメント(愛着)理論への関心↑
- ・他の研究分野との交流
Cf.動物行動学、生成文法理論等

近年

- ・過去の理論への批判と見直し。
- ・研究手法の進展
(実験, 行動観察, 日誌, 脳測定等)

発達心理学の流れ

近年

文化差や環境差，個人差への注目

- ・ヴィゴツキーの再評価。
- ・ピアジェの説の再検討。

→新しい理論形成が必要？

* 心理的発達において重要な概念

アタッチメント(愛着)

特定の対象に対する特別の情緒的結びつき

ボウルビィ (Bowlby, J. ; 1907-1990)

cf. ハーローの実験

(Harlow & Mears, 1979)

→ ストレンジ・シチュエーション法

(詳細は後述)

基本的な概念

アタッチメント(愛着)

ボウルビィ(Bowlby) 4段階発達説

- 1) 人への関心のみ(人区別できない)
- 2) 母親への反応(母親不在に対して不安をまだ示さない)
- 3) 愛着形成期(愛着行動活発)
- 4) 愛着対象との身体的接近を必要としなくなる。他の対象への愛着の拡張。

基本的な概念

アタッチメント(愛着)

ボウルビィ(Bowlby, J.)

母親でなければいけない？

・・・母親と築きやすいのは確かだが・・・

3歳児神話？

発達理論1

繁榘(編)「心理学概論」遠見書房

小嶋・森下(著)「児童心理学への招待」サイエンス社

外山・外山(著)「やさしい発達と学習」有斐閣アルマ

向田(編著)「発達心理学概論」放送大学

上原 泉

発達心理学の理論

ピアジェの発達理論

- **スキーマ**（認識の枠組み）
- **同化**（スキーマに基づき情報を取り入れる）
と**調節**（スキーマ自体を変更する）の過程
- **均衡化**（同化と調節を繰り返し、次の段階の安定した認識に発達させる）

発達心理学の理論

ピアジェの発達理論

発達段階説

- 感覚運動期 (～2歳頃)
- 前操作期 (2歳～7歳頃)
- 具体的操作期 (7, 8歳～11歳頃)
- 形式的操作期 (11, 12歳～[14, 15歳頃])

発達心理学の理論

ピアジェの発達理論

- ・ **感覚運動期**（～2歳頃）
 - ・ 知覚と行動の間が，言語・表象を介さずに直接結びついている状態。
 - ・ 6段階に分けられる。
 - ・ 反射，自分の身体への行動，物への働きかけ，目的をもったリーチング，様々な試み、表象（**永続性の理解・延滞模倣**）など。

発達心理学の理論

ピアジェの発達理論

- **前操作期** (2歳～7歳頃)

- **表象**

- 眼前にないものを思い浮かべる。

- **象徴機能**の成立。

- ある事物を別の事物で表す。

- 見立て, ふり, ごっこ遊び

発達心理学の理論

ピアジェの発達理論

- ・前操作期（2歳～7歳頃）

- ・直観的思考（4歳～）：

概念（高いほうが量が多いなど）にもとづいた思考。見かけに左右される。

保存課題ができない。

他, 「行為を内化し表象する」ことができない。

発達心理学の理論

ピアジェの発達理論

- 具体的操作期（7，8歳～11歳頃）
 - 保存課題が可能になる。
 - 見かけに左右されることなく，論理的な操作，推理が可能になる
（具体的に操作しやすいものに限られる）。

発達心理学の理論

ピアジェの発達理論

- ・ **具体的操作期** (7, 8歳～11歳頃)
 - ・ 別の角度からの見方の推理が可能になりはじめる (**三山問題**)。

発達心理学の理論

ピアジェの発達理論

- ・形式的操作期（11,12歳～14,15歳頃）
 - ・三山問題は十分に可能。
 - ・仮説演繹的思考が可能になる。
 - ・具体性を伴わない，対象間の関係について扱えるようになる。（比例概念など）

参考文献：「よくわかる認知発達とその支援」（子安編：ミネルヴァ書房）

発達心理学の理論

ヴィゴツキーの発達理論

- ・発達の最近接領域

自力で達成できる水準と、他者の援助により達成できる水準のずれの範囲。

- ・社会的、歴史的に形成された道具や記号（言葉）を媒介として行われる他者との交流が発達を支える。

精神間機能→精神内機能

心理Ⅱ

(10/17)

上原 泉

発達心理学の理論

ヴィゴツキーの発達理論

外言が出現し、外言と内言の分化へ

自己中心的言語は外言から内言への
移行期に出現。

根拠：幼児が外国語集団内に入ると、独り
言少ない。筆記用具を与えず絵を描かせ
ると独り言多い。

発達心理学の理論

ヴィゴツキーの発達理論

外言が出現し、外言と内言の分化へ

自己中心的言語は他者へのコミュニケーション形態をとりつつ、

思考の道具としての（内言と同様に）働きを担い始めている。

発達心理学の理論

ヴィゴツキーの発達理論

理論が具体化していないものが多い。

ワーチ (Wertsch, J.V.)

発達の最近接領域の検討

母子でのパズル課題 一年少児には直接的援助、年長児には間接的援助。

・・・足場かけ(足場づくり)

発達心理学の理論

ヴィゴツキーとピアジェの違い

- ・ピアジェは，社会文化や文脈をあまり考慮せず個人内の過程をとらえようとした。
- ・言葉を媒介とした，他者と相互交渉をしていくなかで，発達がすすむと考えた。
→教育への提言

発達心理学の理論

その他の発達の理論(1)

- ブロンフェンブレンナーの
生態学的システム理論
- エリクソンの心理・社会的発達の理論
- バルテスの生涯発達理論

参考文献:「よくわかる認知発達とその支援」(子安編:ミネルヴァ書房)
「心理学概論」(繁榊編・遠見書房)、「発達心理学概論」(向田編著)

ブロンフェンブレンナーの生態学的システム理論

環境は重層的な構造。

それら環境と個人との間の（環境同士も含む）相互作用の中で発達。

ブロンフェンブレンナーの生態学的システム理論

マイクロシステム

家庭、学校、遊び場等

メゾシステム

マイクロシステム内の2つ以上の行動環境の相互関係からなる。

エクソシステム

親の職場、家族の友人、地域の教育委員会活動等
間接的な影響を及ぼしあう関係。

マクロシステム

思想、信念体系、文化等。

クロノシステム

時間的な環境変化。社会文化的、個人的出来事等

エリクソンの心理・社会的発達理論

自我の生涯にわたる発達(8段階)

ライフサイクル理論ともいわれる。

→次ページ参照

各段階で経験する危機と獲得

各段階は前段階の上に築かれる。

エリクソンの心理・社会的発達理論

自我同一性の確立が中心テーマ

→青年期

- ・・・文化差，状況に応じた変化，など説明しきれない部分も多い。

バルテスの生涯発達理論

年齢的要因: 年齢に応じて同様に経験する身体的、社会的要因

歴史的要因: 歴史的な文脈において同年代に同様の影響を及ぼす要因

非標準的要因: 個人的な経験要因

幼少期: 年齢的要因の影響力 ↑ ↑

青年期: 年齢的要因の影響力 ↓ ↓

歴史的要因の影響力 ↑ ↑

老年期: 歴史的要因の影響力 ↓ ↓、年齢的要因の影響力 ↑、非標準的要因の影響最大 ↑ ↑

発達心理学の理論

その他の発達の理論(2)

- ・**コールバーグの道徳性発達理論**

アメリカ的価値観，慣習との区別など。

Cf.アイゼンバーグの道徳性，向社会行動判断

コールバーグの道徳性発達理論

ピアジェの話を発展させた。

ピアジェの話とは・・

コールバーグの道徳性発達理論

3水準6段階説

慣習以前の水準（前慣習の水準）

慣習的水準（慣習の水準）

慣習以降の水準（脱慣習の水準）

コールバークの道徳性発達理論

例話「重い病気の妻を助けるため、高い特効薬を買うために金策につとめたが、どうしてもお金が集まらず、強欲な薬屋から薬を盗んだ」

- ・・・文化差や性差等が考慮されていない？
道徳判断の範囲が限られている？

Cf.アイゼンバーグの道徳性判断

向社会的行動（他者の利益や助けになる）
の発達段階に目を向けた。

←コールバーグで欠けていた内容。

測定指標・測定内容

- ・生体反応(呼吸、心拍数、脳波など)

Cf. NIRS脳計測装置(ヘモグロビン変化測定)

- ・視線(注視時間)、眼球運動

- ・行動

笑う回数、もの受け渡し回数、顔を向ける回数等。 質的記述。

- ・音声・発話記録

語彙数、イントネーション、重なり具合等。

- ・質問紙(養育者や保育士等)や面接

研究方法：時間的視点から

- ・縦断的研究と横断的研究

2歳の子ども40人を4歳になる時点まで追跡し，2歳時点と4歳時点と比較し，発達過程を探る・・縦断的研究

2歳の子ども40人と別の4歳の子ども40人を対象に調査し，比較し，発達過程を探る・・・横断的研究

* 研究方法：調べ方

調査，実験，観察，検査，面接

観察

・・ストレンジ・シチュエーション法等

検査

・・発達検査、言語発達検査等

乳幼児の記憶

上原 泉

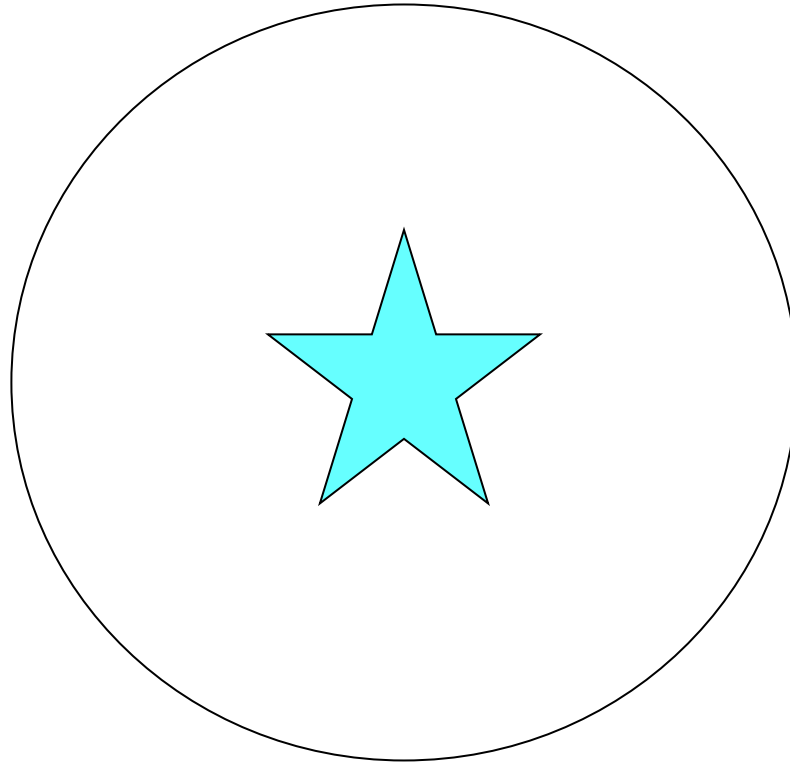
乳児の記憶と測定

1) 注視時間

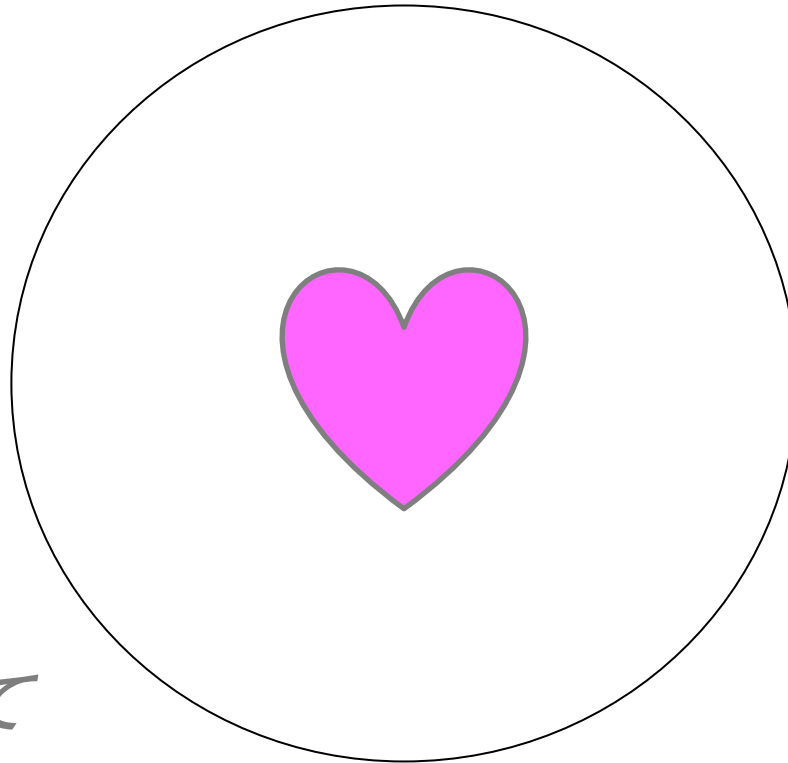
- 馴化脱馴化法
- 選好注視法

(→視力, 色覚測定などでも使われる)

馴化脱馴化法



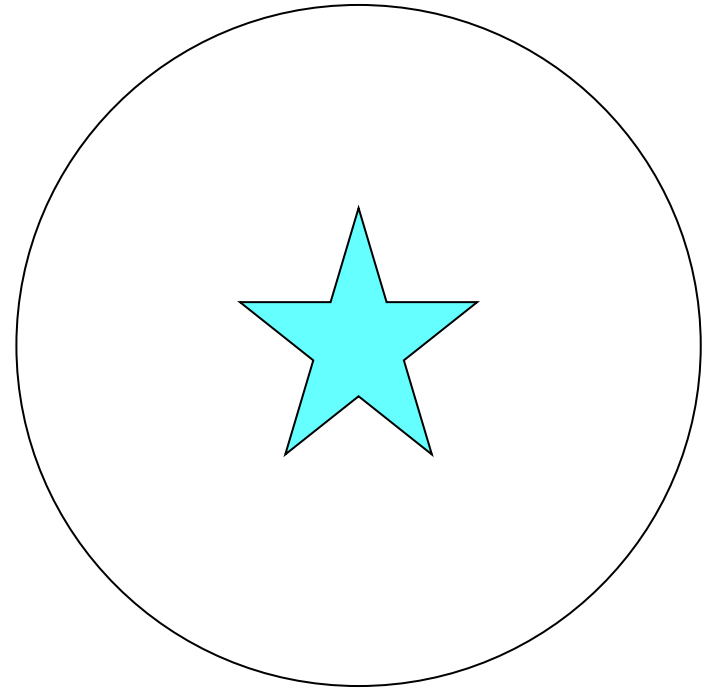
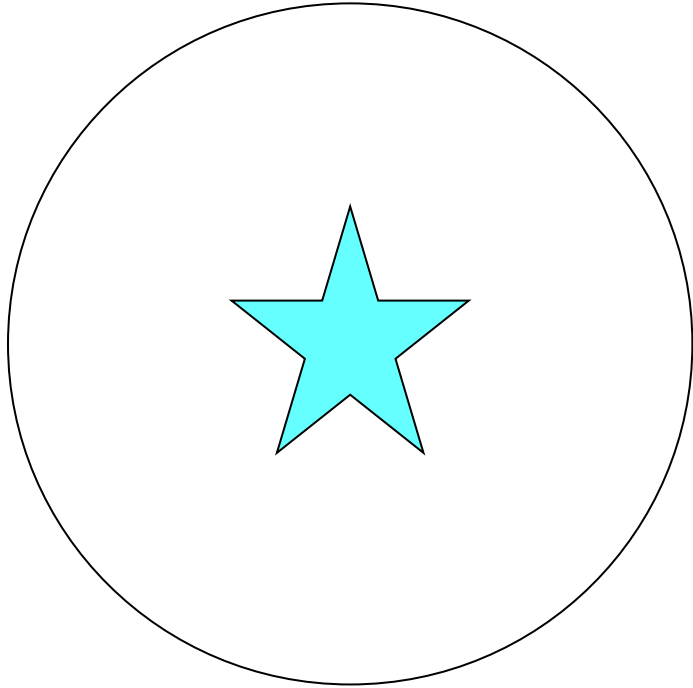
馴化脱馴化法



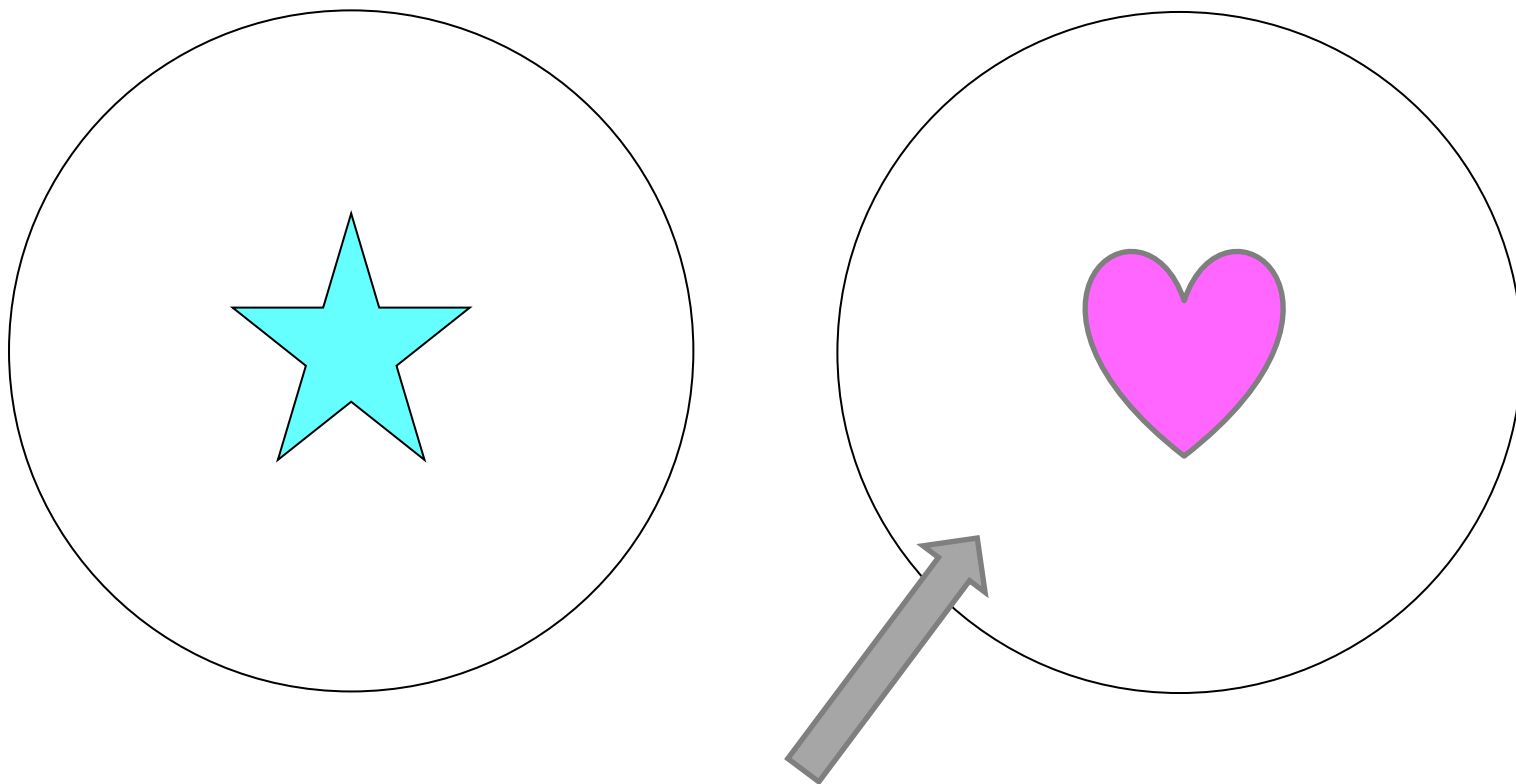
見るものの場合は
新しもの好き
だが、音に関して
は古いもの好き
？（刺激や状況
による）

前に見た絵
と異なること
に気がつくと
注視時間が
増える。

選好注視法



選好注視法



前に見た絵(星)を覚えていると
多くの場合、ハートをよく見る。

心理Ⅱ

(10/24)

上原 泉

乳児の記憶と測定

1) 注視時間

- 馴化脱馴化法

- 選好注視法

- ・・乳児6ヶ月位までが行いやすいが
1歳以降も使われることが多い。

乳児の記憶と測定

2) モビールの実験 (Rovee-Collier, 1997ほか)

- ・ 乳児6ヶ月位まで。

乳幼児の記憶と測定

3) 延滞模倣 (Bauer, 1996ほか)

延滞模倣とは、モデルとなる人の動作や発話を見聞きした後、モデルの人がいないときに真似ること。

例) 音の鳴るおもちゃを組み立てる。

例) “くま”の一日

乳児の記憶と測定

4) その他

吸啜反応

暗闇の中のリーチング

乳児の記憶と測定(まとめ)

- 馴化脱馴化法

選好注視法, 延滞模倣, モビール

- 6ヶ月以下の乳児でも1週間以上にわたって記憶していただける。

- 9ヶ月頃までは1ヶ月間覚えているのは難しいが, 10ヶ月をすぎると数ヶ月から半年近くまで可能。

幼児の記憶と測定

1) 幼児(2歳半～)“再認・再生”テスト

箱や袋を使った課題。

箱や袋に何が入っているか？

(箱の位置なども操作)

3歳前後で80%の正答率。

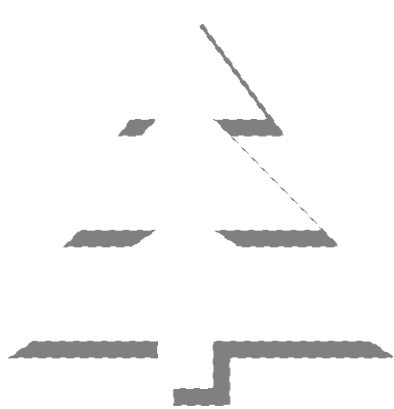
(Perlmutterら)

幼児の潜在記憶と顕在記憶

2) 幼児の顕在記憶と潜在記憶

絵の再認課題(顕在記憶課題)

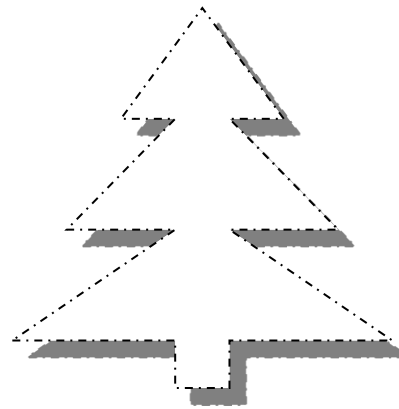
線画課題やゲーム(潜在記憶課題)



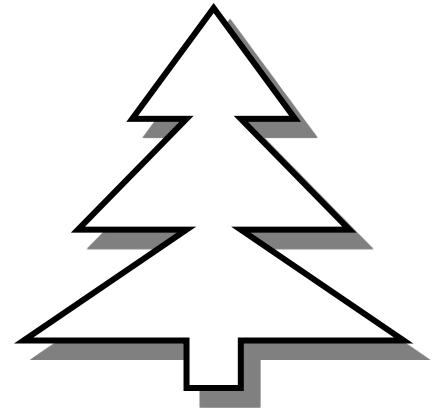
レベル1



レベル2



レベル3



レベル4

幼児の潜在記憶と顕在記憶

2) 幼児の顕在記憶と潜在記憶

成人や年長の子どもとの成績比較

幼児では、成人と同様に潜在記憶課題はできるが、顕在記憶課題ができない。

幼児の日常的な記憶

3) 幼児の記憶の語り (Nelson, Fivushら)

2, 3歳の幼児の語り

大人から手がかりを得ながら
誘導される形で語る。

語り口も十分に身についていない。

幼児の日常的な記憶

3) 幼児の記憶の語り (Nelson, Fivushら)

4, 5歳以降の幼児の語り

自らの体験を意識的に回顧的に語るようになる。

エピソード記憶・自伝的記憶の成立

幼児の日常的な記憶

4) 幼児の記憶報告の信頼性

例1：お腹をこわしたのは？

卵食べてお腹が
痛くなってしまった
ことを説明。

幼児の日常的な記憶

4) 幼児の記憶報告の信頼性

例1：お腹をこわしたのは？

次の日・・・

「シリアル食べてお腹痛かったのは誰だったっけ？」

幼児の日常的な記憶

4) 幼児の記憶報告の信頼性

例1：お腹をこわしたのは？

その次の日・・・「(前に)見せたカードに
あった絵は？」

幼児の記憶

- 2, 3歳の幼児は手がかりが与えられうまく導かれれば数ヶ月以上前の出来事を断片的に語る事が可能。
- 5, 6歳であれば, 1年以上前の出来事を語るケースもある。
- 3, 4歳頃までの出来事の報告は, 信頼できない(想像の話, 誘導など)。

記憶区分と乳幼児の記憶 (意識の視点)

1) 顕在記憶と潜在記憶

× **顕在記憶**: 年長の子どもや成人より↓
自覚的に思い出せる記憶。

(通常の) 再認・再生テストで測定される。

● **潜在記憶**: 年長の子どもや成人と同じ
自覚的に思いだせないが、行動に現れるような記憶。

記憶区分と乳幼児の記憶 (内容の視点)

2) 手続き記憶・意味記憶

・エピソード記憶・自伝的記憶

○ 手続き記憶

○ 意味記憶・言語発達に伴い↑

△ エピソード・自伝的記憶・

言語能力・自己認識・回顧的な意識

4歳以降に急激に発達。

記憶区分と乳幼児の記憶 (時間の視点・記憶容量)

3) 長期記憶・短期記憶・ワーキングメモリ

これまで紹介したのは乳幼児の長期記憶

乳幼児における短期記憶(数十秒間情報を保持する)は？

ワーキングメモリ(作動記憶)

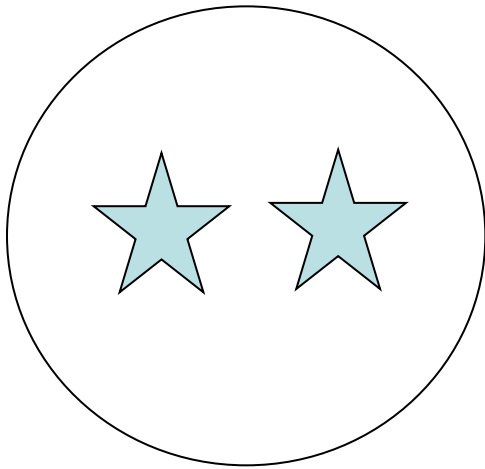
: 短期記憶の保持＋認知処理

記憶区分と乳幼児の記憶 (時間の視点・記憶容量)

乳児の短期記憶

馴化脱馴化法により測定

例)

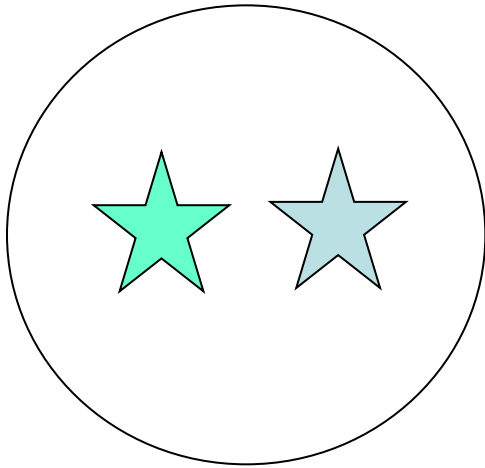


記憶区分と乳幼児の記憶 (時間の視点・記憶容量)

乳児の短期記憶

馴化脱馴化法により測定

例)

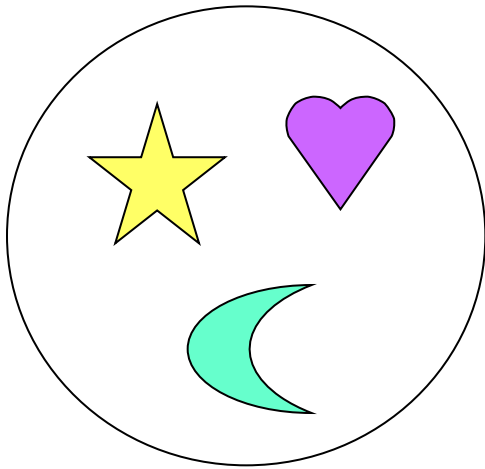


記憶区分と乳幼児の記憶 (時間の視点・記憶容量)

乳児の短期記憶

馴化脱馴化法により測定

例)

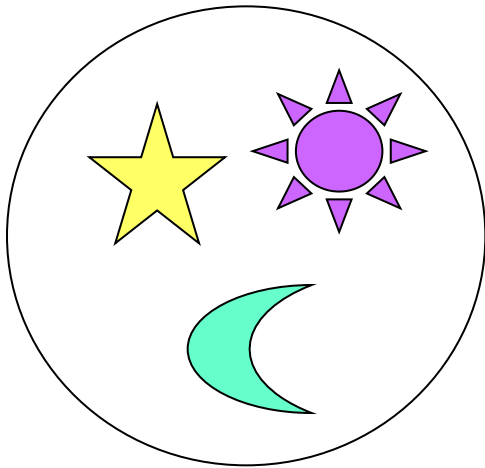


記憶区分と乳幼児の記憶 (時間の視点・記憶容量)

乳児の短期記憶

馴化脱馴化法により測定

例)



記憶区分と乳幼児の記憶 (時間の視点・記憶容量)

乳児の短期記憶

生後半年は1個程度。

1歳頃は最大で4個保持可能(?)。

生後1年目後半の半年に
短期記憶容量の発達が著しい。

記憶区分と乳幼児の記憶 (時間の視点・記憶容量)

幼児の短期記憶

短期記憶の測定 : メモリスパンの課題

数字 : 3歳頃までに3程度, 5歳頃に4程度
6歳でほぼ5程度(新版K式, 田中ビネー)

短文復唱 : 4歳位～

長文復唱 : 8歳位～

記憶区分と乳幼児の記憶 (時間の視点・記憶容量)

幼児の短期記憶

乳児は、非言語的に記憶している。
幼児は、言語的に記憶しはじめる。

* 乳児期と幼児期の連続性は不明

心理Ⅱ

(10/31)

上原 泉

記憶区分と乳幼児の記憶 (時間の視点・記憶容量)

乳児のワーキングメモリ？

測定困難。未発達？

幼児のワーキングメモリ

リスニングスパンの課題

複数の関連性のない文リストの文頭の再生は

6歳で2程度

複数の関連のある文リストの文頭の再生は

6歳で3程度 (石王・苧阪, 1994)

記憶区分と乳幼児の記憶(まとめ)

- 長期記憶の発達

エピソード記憶, 自伝的記憶は4歳以降に発達が著しい。

手続き／意味／エピソード記憶・自伝的記憶

潜在記憶

顕在記憶

発達



記憶区分と乳幼児の記憶(まとめ)

- 長期記憶の発達

乳児の記憶は、より手続き的、潜在的な記憶(選好注視法、モビール、延滞模倣など)

手続き／意味／エピソード記憶・自伝的記憶

潜在記憶

顕在記憶

発達



記憶区分と乳幼児の記憶(まとめ)

- 短期記憶(記憶容量において)の発達は生後1年目の後半に著しい。
- 長期記憶(保持期間において)の発達も生後1年目の後半に著しい。
- ワーキングメモリの測定は幼児期以降。

メタ記憶の発達

メタ記憶とは・・・記憶に関する認知活動や
行動に対する客観的な認知

モニタリングとコントロールが中核機能

モニタリング：記憶状態の意識的把握

コントロール：記憶をよくするための行
動に関わる機能

メタ記憶の発達

メタ記憶

モニタリングは、エピソード・自伝的記憶の発達に伴い発達する。

コントロール

本格的に機能するのは5, 6歳以降

記憶方略の発達

記憶方略の発達（メタ記憶の発達）

記憶することを十分に意識化できなければ無理。乳幼児期は未発達。

忘れないように反復して唱えるなどの、
リハーサル方略は、7歳頃から。

知識の体制化と記憶

スキーマとスクリプト

スキーマ：一般化された知識の塊。かつ、知識を構成するモジュール。変数をもつ（スロット）。例）買い物スキーマ，品スロット

スクリプト：一連の出来事のつながりとしての知識表現・枠組み。

例）レストランスクリプト，病院スクリプト

3歳頃までは，スクリプトの形成は不十分

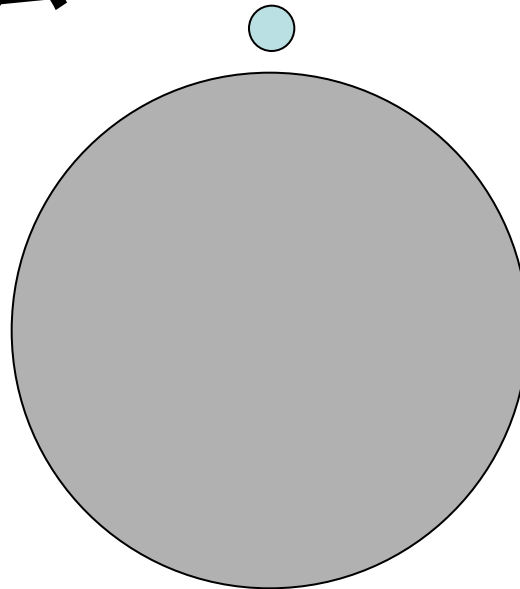
視知覚の発達

上原 泉

視覚の発達

視力の検査

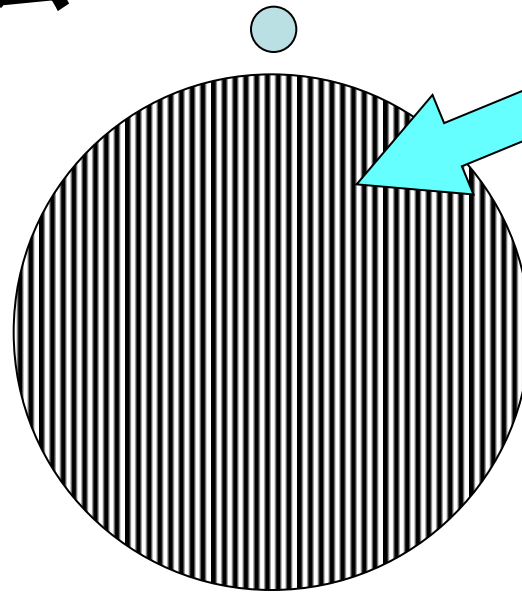
- 馴化脱馴化法
- 選好注視法



視覚の発達

視力の検査

- 馴化脱馴化法
- 選好注視法

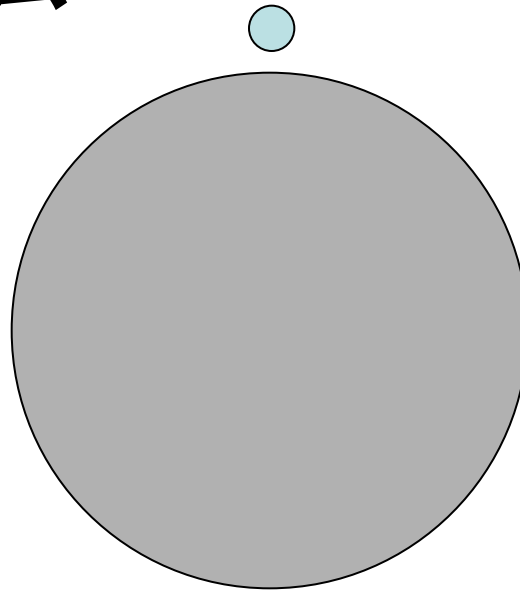


線と見えな
いと灰色
に見える
ため
脱馴化
(注視時間
の増加)
はおこら
ない。

視覚の発達

視力の検査

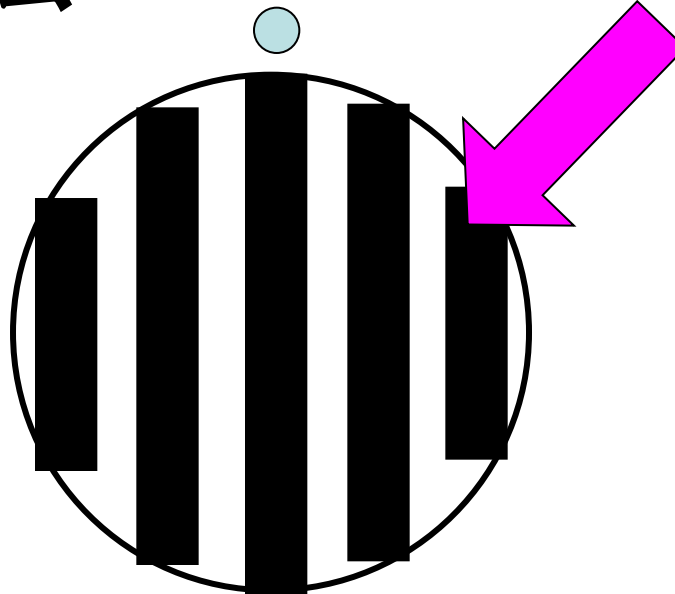
- 馴化脱馴化法
- 選好注視法



視覚の発達

視力の検査

- 馴化脱馴化法
- 選好注視法



線が見えて
いれば
脱馴化
がおり
注視時間は
長くなる。

視力検査例 (選好注視法)

「赤ちゃんは知っている」(ジャック・メレール・
Eデュプー著, 加藤・増茂訳, 藤原書店)p.97

視覚の発達

視力の発達

3ヶ月で0.01～0.02

6ヶ月で0.04～0.08

1歳で0.2～0.25, 2歳で0.5～0.6

4, 5歳頃に1.0程度に達する。

十分な視覚経験が必要とされる時期

(長期の眼帯は避けるべき)

視覚の発達

眼球運動の発達

サッケード: 眼球の瞬間的運動。予測性の強い眼球運動。2, 3ヶ月から可能。

追跡運動: 運動する目標を目で追っている時に現われる眼球運動。

サッケードより遅れて発達。

視覚の発達

* サツケード: 注意との関連

中央の固視点がでたまま他の刺激が出て、その刺激へのサツケードは2, 3ヶ月だと無理。

サッカードの実験例

2, 3ヶ月児 2つの刺激が一緒に出ているとサッカードが難しい。

松沢由子・下條信輔 (1996)
「乳児における注意・知覚記憶の
相対作用とその発達」上

視覚の発達

* サッケード：注意との関連

× (fixation point 固視点) がでたままで刺激がでるより、×が消えてから、刺激がでる方が、すぐに注意が移動できる(注意の問題)。

予測、注意という機能と密接に結びついて
いる眼球運動。

視覚の発達

奥行き知覚の発達

視覚的断崖

衝突回避実験

2, 3ヶ月頃から奥行き知覚が可能。

奥行きと怖さを結びつけるのは少し後。

視覚の発達

奥行き知覚と両眼視差

両眼視差（同じモノを見ても2つの目は異なる網膜像を受け取る）

＊ 遠くを見るときは両目の視線が平行になり網膜像のずれは少。

近くを見るときにずれが大。

→奥行きがあると知覚しやすい。

視覚の発達

奥行き知覚と両眼視差

両眼視差が初期の視覚経験で重要。

ほか、奥行き手がかりとなるもの
きめの勾配、運動視差

視覚の発達

ほか、奥行き手がかりとなるもの

きめの勾配

「図説現代心理学入門」(金城辰夫編, 培風館、1998) p.88

視覚の発達

ほか、奥行き手がかりとなるもの
運動視差

動いているときの画像のズレ

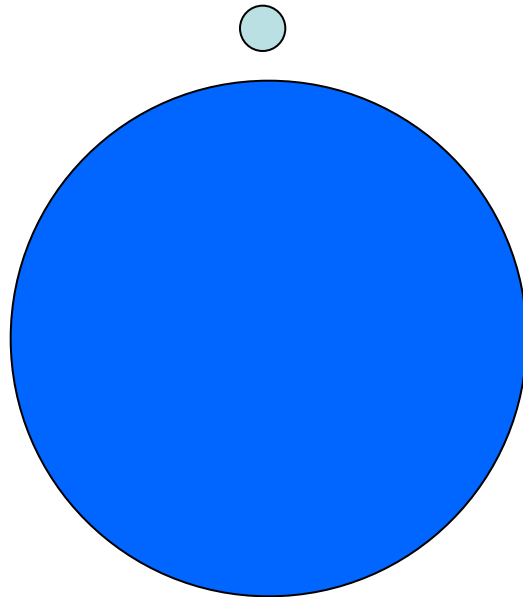
視覚の発達

色彩知覚

色の4カテゴリー：赤，青，黄，緑

馴化脱馴化法

見せ続け
て馴化
させる。



480nmの波長

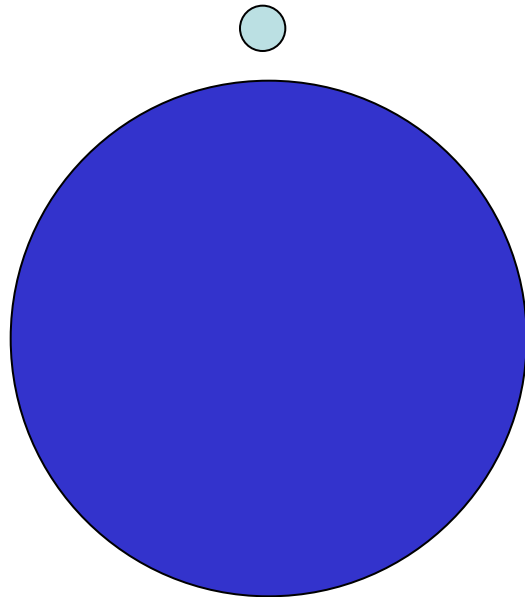
視覚の発達

色彩知覚

色の4カテゴリー: 赤, 青, 黄, 緑

馴化脱馴化法

同じ青色とみ
なし脱馴化
(注視時間の
増加)はお
こらない。



480nmの波長

↓ -30nm

450nmの波長

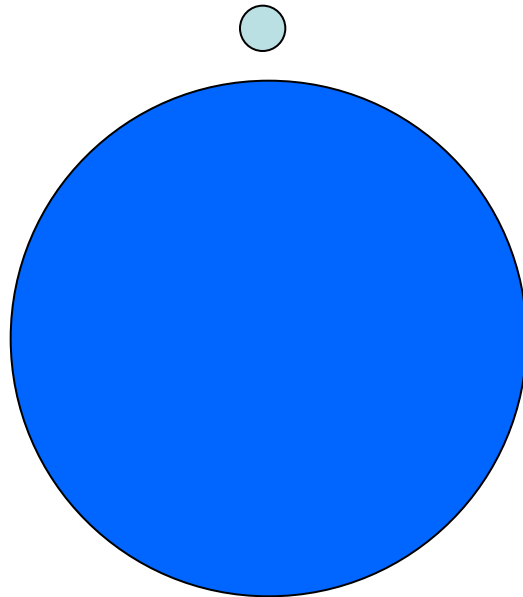
視覚の発達

色彩知覚

色の4カテゴリー：赤，青，黄，緑

馴化脱馴化法

見せ続け
て馴化
させる。



480nmの波長

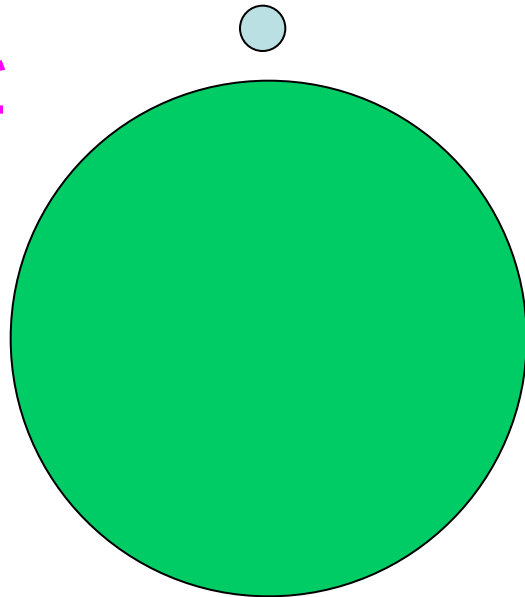
視覚の発達

色彩知覚

色の4カテゴリー: 赤, 青, 黄, 緑

馴化脱馴化法

別の色(緑)と
みなし脱馴化
がおこる。
(注視時間
が増加する)



480nmの波長

↓ +30nm

510nmの波長

色の知覚：成人と新生児のカテゴリー



「赤ちゃんは知っている」(ジャック・メレール・Eデュプー著, 加藤・増茂訳, 藤原書店, 1997) p.109

ただし、新生児期は一定の色の区別はあるが、成人に近い識別になるのは2,3ヶ月頃から

視覚の発達

好んで見る刺激（選好注視）

新しい絵 > 古い絵（記憶）

複雑図形 > 単純図形（視力）

顔の刺激 > 顔以外の刺激

Cf. 顔ニューロン, 相貌失認

乳児の顔刺激への興味

生後2ヶ月頃から顔への興味が顕著になる。

参考文献:「図でよむ心理学:発達」(高野清純監修, 川島一夫編, 福村出版)

心理Ⅱ

(11/7)

上原 泉

視覚の発達

知覚の恒常性

網膜への像の映り方(見え方)は常に変化しているが、形状や模様などの認識は変わらないこと(安定的な見えのこと)。

生後2ヶ月頃に、大きさや形の恒常性
(→実験例は次ページ)

知覚の恒常性：実験（１）

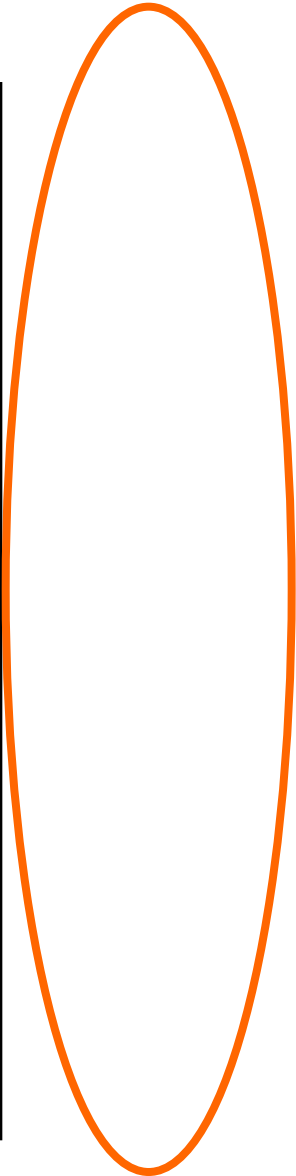
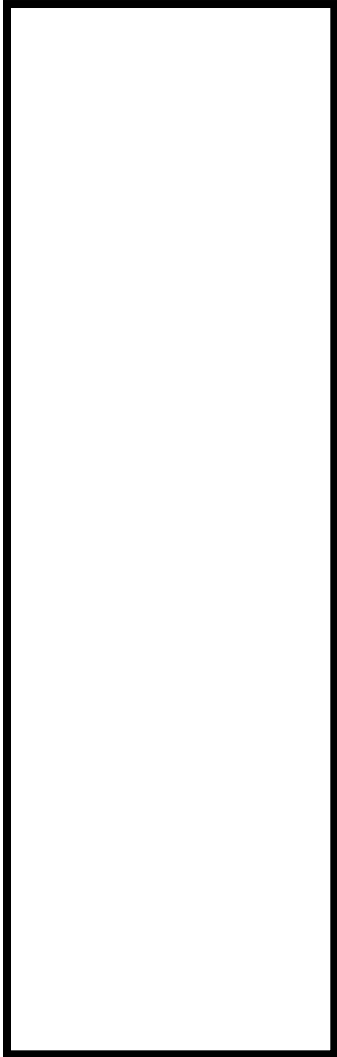
別物
(網膜上同じ)

条件づけ手法
見る回数

同じもの
(網膜上小さく)

知覚の恒常性：実験(2)

条件づけ



視覚の発達

斜視

→視力，両眼視機能の発達に影響。

斜視で物が二重に見える。

（両眼の視線がそろわない）

→子どもは片目だけで物を見ようとする。

→片目の視力が悪くなる（→弱視の可能性）。

視覚の発達

弱視：はっきり見る事ができない状態が長く続くと、視力の発達が抑えられ、後々メガネで十分な視力が得られなくなる。

コミュニケーション、言語の発達

上原 泉

赤ちゃんはどうやって コミュニケーションを行っているのか？

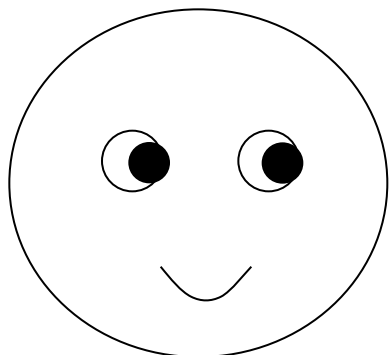
出典:「図で読む心理学」(高野監修)
福村出版 P.90

エントレインメント

同調・模倣

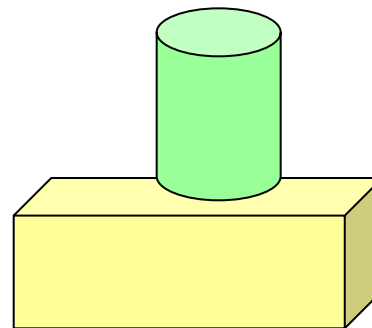
赤ちゃんはどうやって
コミュニケーションを行っているのか？

二項関係



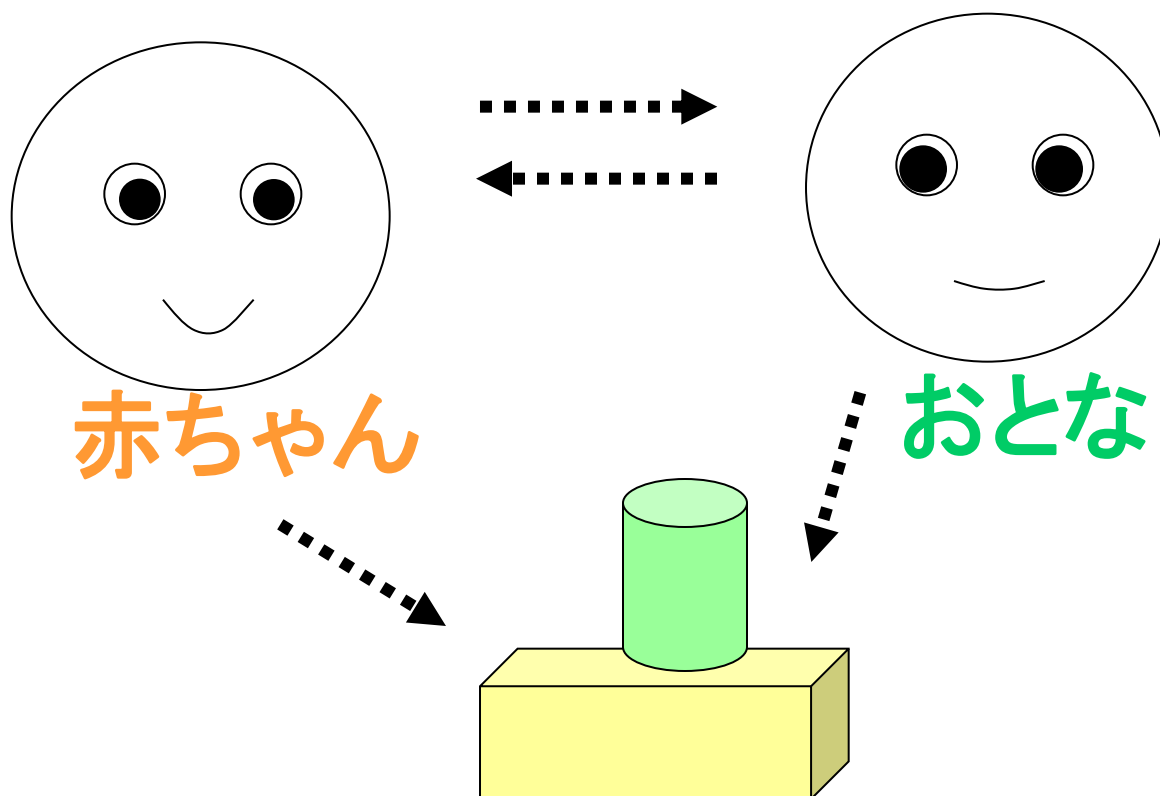
赤ちゃん

働きかけ

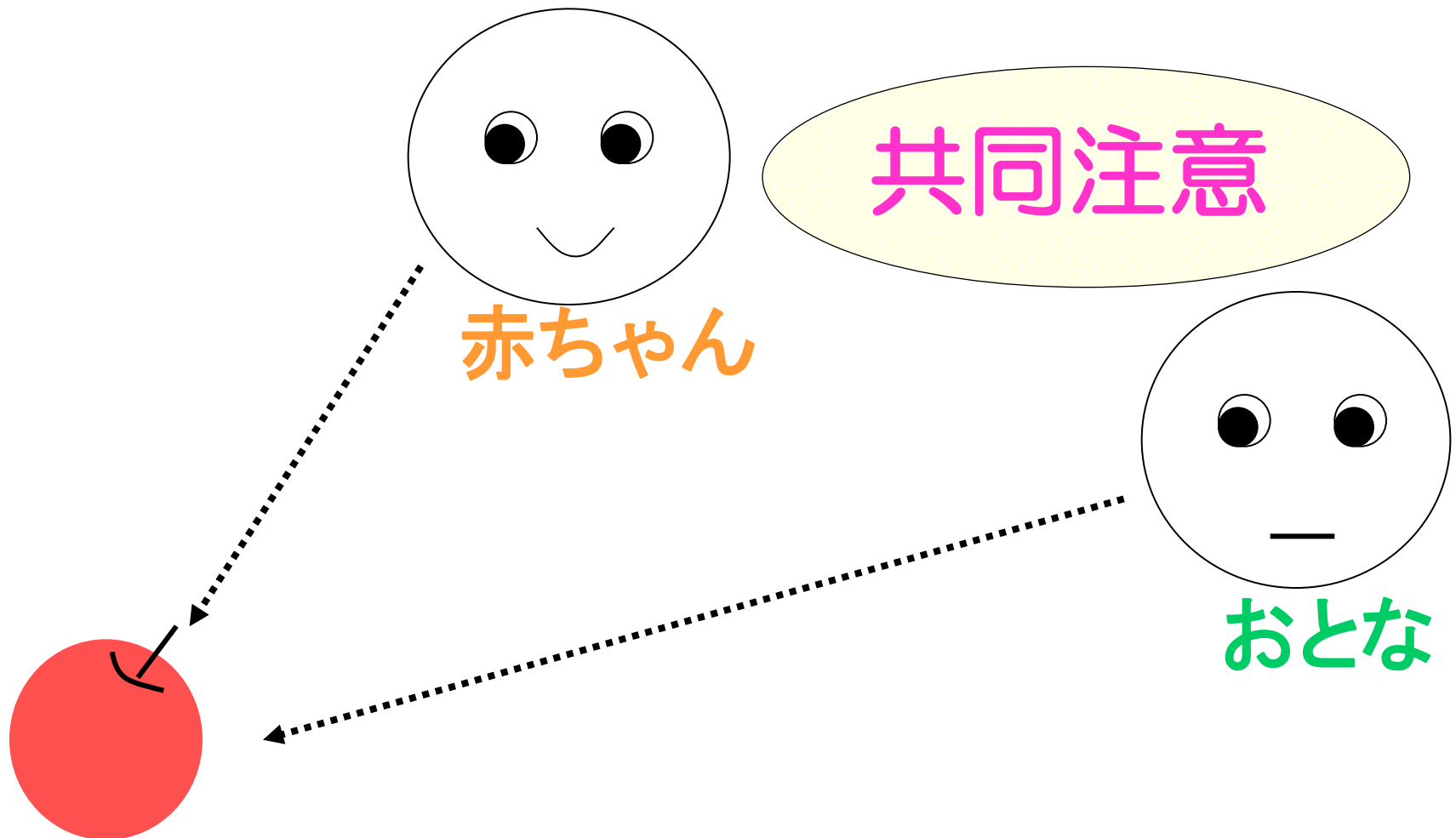


赤ちゃんはどうやって
コミュニケーションを行っているのか？

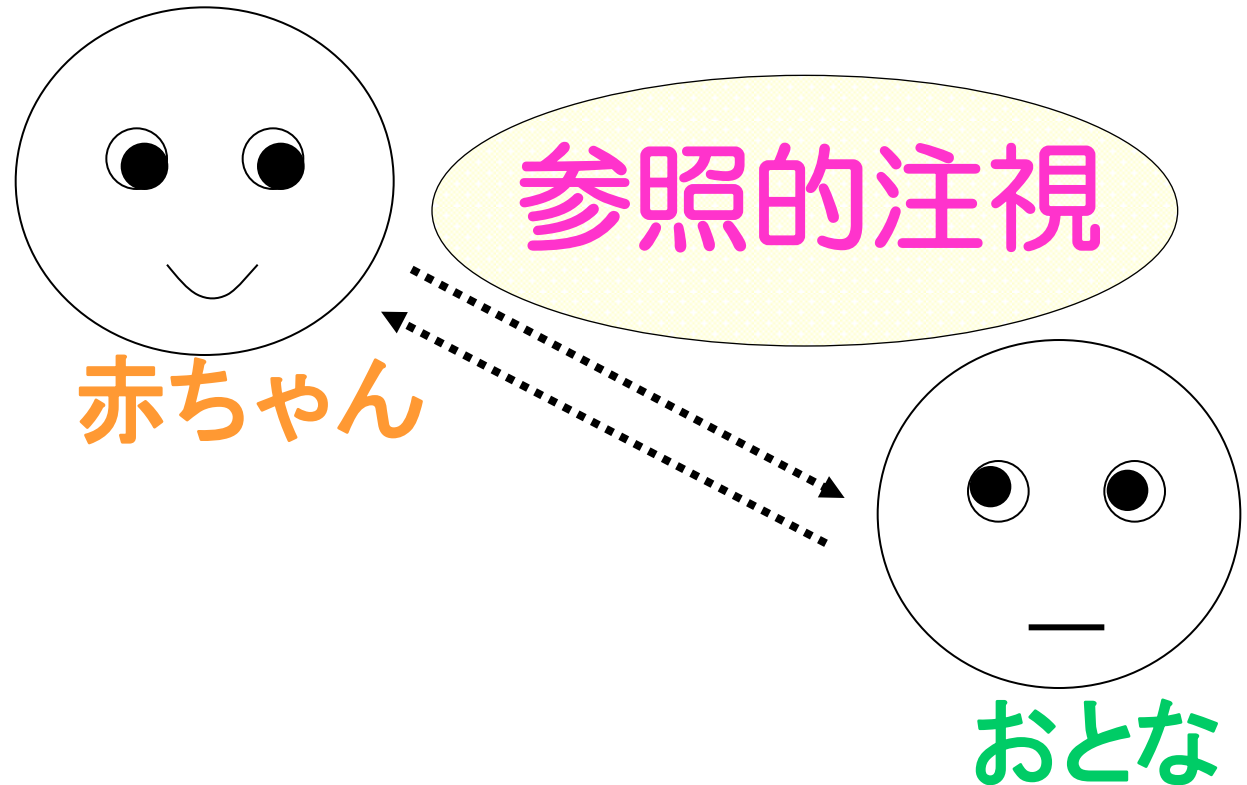
三項関係



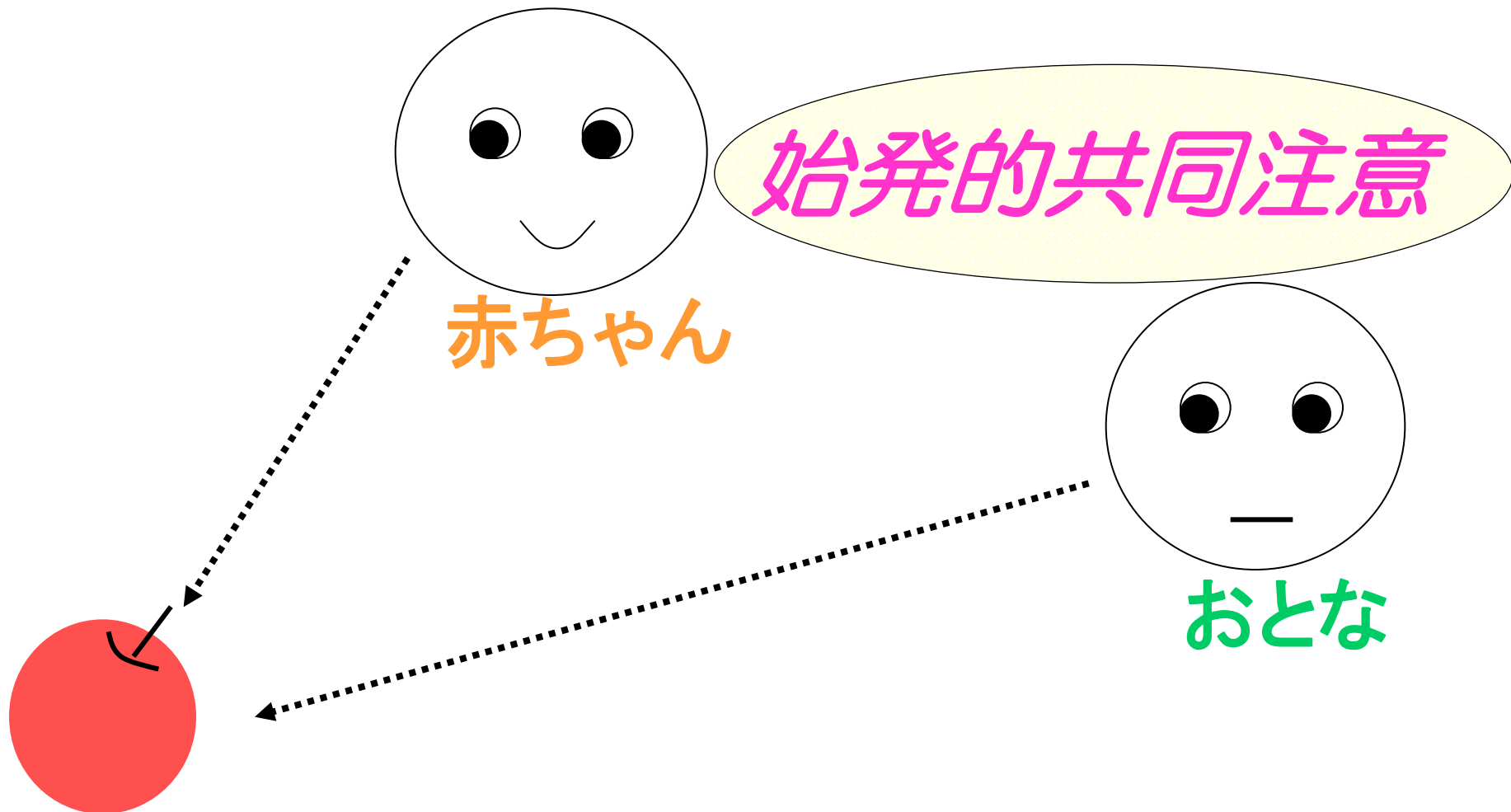
赤ちゃんはどうやって
コミュニケーションを行っているのか？



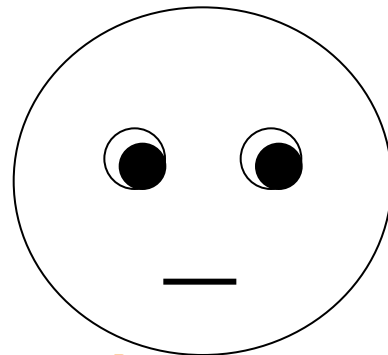
赤ちゃんはどうやって
コミュニケーションを行っているのか？



赤ちゃんはどうやって
コミュニケーションを行っているのか？



赤ちゃんはどうやって
コミュニケーションを行っているのか？



赤ちゃん

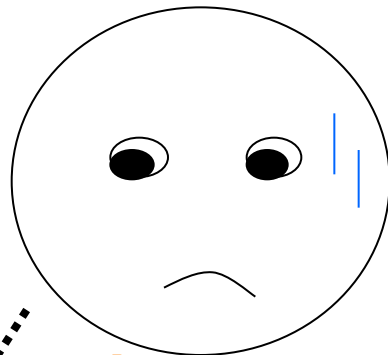
社会的参照



おとな

クモ！

赤ちゃんはどうやって
コミュニケーションを行っているのか？



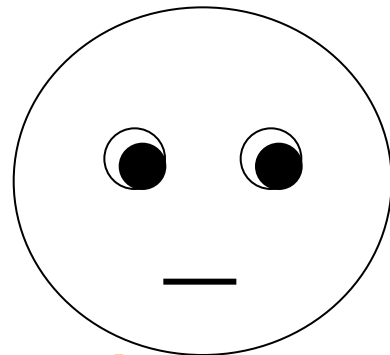
赤ちゃん



おとな

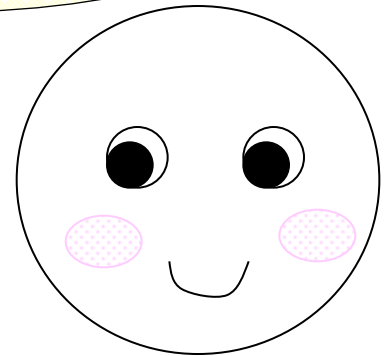
クモ！

赤ちゃんはどうやって
コミュニケーションを行っているのか？



赤ちゃん

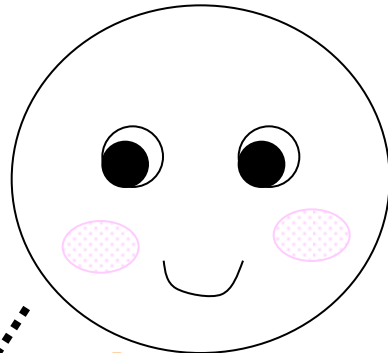
社会的参照



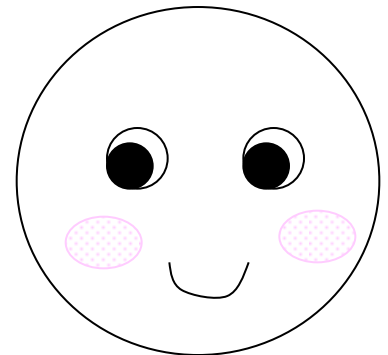
おとな

きれいな花

赤ちゃんはどうやって
コミュニケーションを行っているのか？



赤ちゃん



おとな

きれい
な花

視線（指差し）コミュニケーション

共同注意：母親（大人）が見た方向をおってその先にある対象を注視すること。

参照的注視：母親（大人）の注意を向けさせるために母親（大人）を注視すること。

始発型共同注意：注意を向けさせて一緒に注視

視線（指差し）コミュニケーション

社会的参照：相手の視線の方向にある物と、そのときの相手の表情を見ることによって、その物への接し方を判断すること。

発達の順番は
共同注意

始発的共同注意 → **社会的参照**

社会的参照の実験：視覚的断崖

深い側におもちゃ
→ちゅうちょする。

社会的参照(1歳位)ができるようになっていくと・・・

「図説現代心理学入門」(金城辰夫編, 培風館), p135

視覚的断崖

6ヶ月すぎると、
躊躇する。
(高さと怖さを理解)

2, 3ヶ月頃から
奥行き知覚がある(心拍数)。

社会的参照の実験：視覚的断崖

深い側におもちゃ
→ちゅうちょする。

社会的参照(1歳位)ができるようになっていくと・・・

＊ 母親がにこにこ

「図説現代心理学入門」(金城辰夫編, 培風館), p135

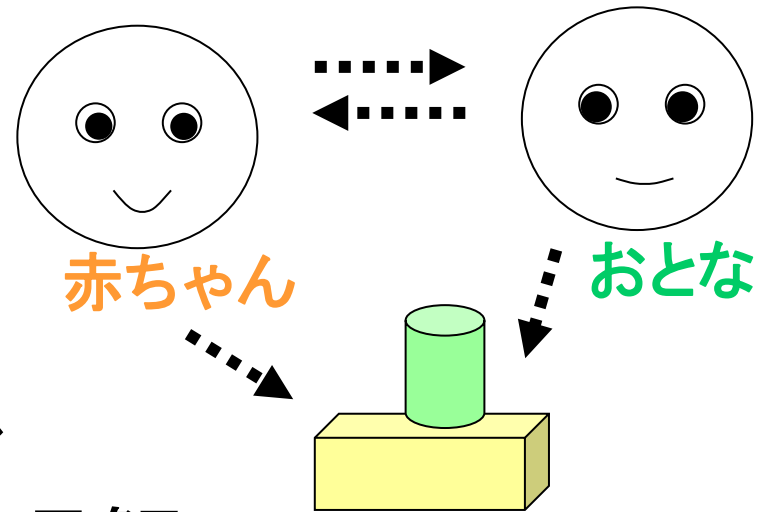
→おもちゃ(深い側)へ

＊ 母親がしかめっ面

→わたらない。

三項関係と視線のやりとり・指さし

- ・何を指すか理解することで、言葉のラベリングがしやすくなる。



- ・視線のやりとり・指さし
 - 他者の伝達意図の理解
 - 自分自身の意図の伝達

1歳頃に意図の存在
を認識する。

模倣とコミュニケーション

即時模倣：相手の行動の直後になされる模倣。他の人の行動や感情に「共鳴」している場合もある(?)。

→社会的コミュニケーションの基礎

Cf. 延滞模倣

* 動物の非言語コミュニケーションとの違い

- 模倣, 視線コミュニケーション
サル類ほぼ×
チンパンジー類で可能な場合がある
△(指差しがあれば)。
 - 想像的な遊び(みなし, ふり, ごっこ遊び)
 - ... 幼少期の社会性の発達とも関連
- * 自閉症児: 共同注意, 模倣が苦手。

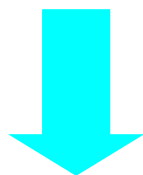
赤ちゃんはどうやって
コミュニケーションをとっているのか？

1)同調, 模倣 ...→言葉の模倣へと

2)アイコンタクト(視線, 注視)

3)指さしなど

(+ 三項関係)



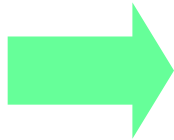
十分な身ぶりコミュニケーションを身につけた頃に音声(ことば)コミュニケーションを発達させる。

赤ちゃんによる音声の聞き取り

抑揚があり、テンポが遅く、高めの音を好む・・・聞き取りやすい！

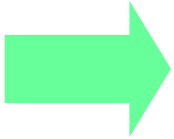
→ことばを覚えやすい！？

マザリーズ



赤ちゃんにとって
聞き取りやすく覚え

童謡など



えやすい！

赤ちゃんによる音声の聞き取り

* マザリーズ

→抑揚のある
ゆっくりとし
た子ども向け
の話しかけを
赤ちゃんは
好む。

ことばを聞き取
りやすい！

「よくわかる言語発達」(岩立・
小椋編, ミネルヴァ書房)

赤ちゃんによる音声の聞き取り

おとなは無意識的に子ども_(新生児)に対しての歌い方を変えている！**ことばを聞き取りやすい！**

「子どもはことばをからだで覚える」(正高著・中公新書)p.30

赤ちゃんによる音声の聞き取り

早い時期
から音の
区別が
できる！

生後4ヶ
月での結
果 →

「赤ちゃんはコトバをどのように習得するか」(B・ド・ボワソン=バルディ著、
加藤・増茂訳、藤原書店)p.32

赤ちゃんによる音声の聞き取り

生得的？

胎児期から学習？

→胎児期の知見が紹介されつつあるが、
胎児期からどこまで学習、知覚されている
かは不明。

赤ちゃんによる音声の聞き取り

胎児期

- ・音環境：韻律は保たれて聞こえる。
（母親の内臓音や雑音とヒト音声）
- ・母親の声繰り返し聞いている。
 - ・・・生後すぐから母親の声好む。

単語に切り分けてきくのは、8－10ヶ月頃までは難しい??

乳児の音声知覚(測定法)

「ことばの獲得」(桐谷滋編, ミネルヴァ書房)P51,45

4ヶ月以降の乳児

5ヶ月以降の乳児

赤ちゃんによる音声の聞き取り

10ヶ月頃に母語音声の区別が可能になる。

英語の乳児は6～8ヶ月を過ぎると英語を聞くのに適した耳(RとLの区別に敏感)になり、
日本語の乳児は日本語を聞くのに適した(RとLを区別しない)耳になる。(10ヶ月頃)

心理Ⅱ

(11/13)

上原 泉

赤ちゃんによる音声の聞き取り

10ヶ月頃に母語音声の区別が可能になる。

* 親しみのある
語リズムに反応
(8～10ヶ月頃)

「ことばの獲得」(桐谷滋編, ミネルヴァ書房), p60

日本語の
語リズムは
「ねんね」
タイプが多い。

赤ちゃんによる音声の聞き取り

10ヶ月頃から母語単語の切り分けが可能！？

「乳児における歌に含まれる語彙バターの短期保持」
(梶川・正高, 認知科学, 2000, 7(2), 131-138)
あひるの行列, いちごのひとりごと, とんでったバナナ,
めえめえこやぎ

何度も聞いた
単語を選択的に
好んで聴く。

(8～10ヶ月頃)

・童謡はことばを
聞き取りやす
い！(短期)

赤ちゃんによる音声の聞き取り

10ヶ月頃から母語単語の切り分けが可能！？

何度も聞いた
単語を選択的に
好んで聴く。

(8～10ヶ月頃)

・童謡はことばを
聞き取りやす
い！(長期でも)

「子どもはことばをからだで覚える」
(正高著・中公新書)p.53

単語の切り出し手がかり

強弱のストレスパターン、
音節の遷移確率（英語の場合）

pre 語頭に多い。

ty 語尾に多い。

pre → ty となる確率高い。

ty → ba になる確率低い。

⇒ PrettyとBabyの間に境界があると推測可

音声知覚の発達

以下の過程で発達するのでは？

母語音声システムの特徴の把握

→ 単語境界の手がかりを学ぶ。

→ 正確に単語の切り出しが可能に。

⇒ 単語の音形と事物を結びつける。

赤ちゃんによる音声(言葉)の理解？

モノの名前を関連づけて記憶し始める！？

「赤ちゃんはコトバをどのように習得するか」
(B・ド・ボワソン=バルディ著、加藤・増茂訳、藤原書店)p.133

←測定装置

例えば、「トラックはどこ？」という音声
に続き、2画面に「トラックとりんご」が呈
示され、どっちを長く
みるか(音声と結び
つけられるか)をみ
る。

赤ちゃんによる音声(言葉)の理解？

モノの名前を関連づけて記憶し始める！？

名詞単語(トラックの例)は13人中(12ヶ月児)9人がマッチする絵を長く注視。

動詞(動作の演技を画面に呈示)単語では, 12人中11人がマッチする映像を長く注視？

ただし, 短文理解等, 状況によって, 15～17ヶ月くらいにならないと反応が安定しないマッチングもある。

赤ちゃんによる音声(言葉)の理解

初語を発する前に、理解できている単語は結構ある(?)

←アメリカ人1600人の親の自分の子どもが理解していると思われる単語数の調査結果(日常的な観察に基づく)

「赤ちゃんはコトバをどのように習得するか」
(B・ド・ボワソン=バルディ著、加藤・増茂訳、藤原書店)p.135

赤ちゃんによる音声の発声へ

両手，両足をリズムカル
に頻繁に動かすようにな
る(身体運動の同期)
(6ヶ月頃)。

* 叫喚音，
クーイング
(喃語出現前)



喃語出現！



初語

身体運動の同期と喃語(調査)

(喃語: 子音 + 母音構造)

「乳児における**喃**語と身体運動の同期現象 I」(江尻, 心理学研究, 68(6), 433-440)

発声する喃語は言語によって違う！？

フランスの子どもと、アルジェリアの
子どもの喃語は異なるのか？

各言語は固有の「母音空間」を持っている？

赤ちゃんは、6ヶ月頃に、自分の
母語音声に適した喃語を発するようにな
る！

18ヶ月、2音節喃語

a) フランス人乳児

b) 日本人乳児

フランス人乳児は上昇イントネーション喃語の割合が高いが日本人乳児は下降イントネーション喃語の割合高い。

(各言語の特徴反映)

「赤ちゃんはコトバをどのように習得するか」(B・ド・ボワソン=バルディ著、加藤・増茂訳、藤原書店、p.76)

「赤ちゃんはコトバをどのように習得するか」
(B・ド・ボワソン=バルディ著、加藤・増茂訳、
藤原書店、p.77)

18ヶ月、2音節喃語

a)フランス人乳児

b)日本人乳児

フランス人乳児は最終シ
ラブル延長喃語の割合
が高いが日本人乳児は
最終シラブル延長喃語
の割合低い(最終シラブ
ル延長されない)。
(各言語の特徴反映)

* 喃語と笑いの発達の関係

両手，両足をリズムカル
に頻繁に動かすようになる
(身体運動の同期)。
(6ヶ月頃)

* 叫喚音，
クーイング
(喃語出現前)

笑いの発達

喃語出現！

初語

* 喃語と笑いの発達の関係

「子どもはことばをからだで覚える」(正高著・中公新書)p.75

喃語と笑いの
テンポが
同期する！？

初期のことば—どうやって学んでいく？

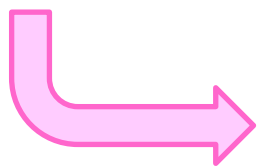
1歳頃までに、

- ・母語音声を単語に切り分けてきく、
韻律的特徴や母語特有の音の把握
がすすむ。
- ・母語音声特有の発声が可能になる。
喃語を経て、初語を発するようになる！

・・・その後は？？

子どもの言葉の学習の不思議

「カップだよ」



カツ／プ／だよ？

カップ／だよ？

カップ／だ／よ？

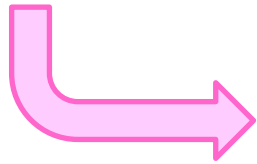
カップだ／よ？

カツ／プだ／よ？

カツ／プ／だ／よ？

子どもの言葉の学習の不思議

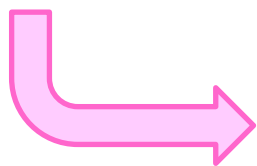
「カップだよ」



音の切り分け、
単語の切り出し

子どもの言葉の学習の不思議

「カップだよ」



陶器？

なまえ？（固有名詞）

黄緑？

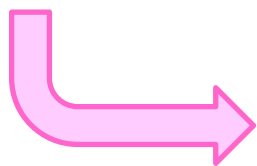
取っ手？

ミルク？

ミルクの入ったコップ？

子どもの言葉の学習の不思議

「カップだよ」

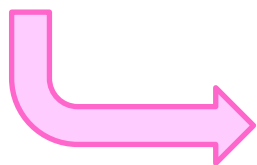


即時マッピング！

対応をほぼ間違えずに覚える。
(間違いは5%程度？)

子どもの言葉の学習の不思議

「カップだよ」



どの範囲まで使えるのか？
(般用基準)

単語の発声

「赤ちゃんはコトバをどのように習得するか」
(B・ド・ボワゾン=バルディ著、加藤・増茂訳、藤原書店)p.148

←アメリカ人1600人の
親の日常的な観察に
基づく。

発声単語数の
変化(8～16ヶ月)

単語の発声

「赤ちゃんはコトバをどのように習得するか」
(B・ド・ボワソン=バルディ著、加藤・増茂訳、
藤原書店)p.149

←アメリカ人1600人の
親の日常的な観察に
基づく。

発声単語数の
変化(16～30ヶ月)

幼児の初期語彙発達

マッカーサー乳幼児言語発達質問紙
(CDIs) (Fenson et al., 1993)

日本語マッカーサー乳幼児言語発達質問紙
(JCDIs) (小椋・綿巻, 2004; 綿巻・小椋,
2004)

単語の発声と種類(50語未満の子)

「赤ちゃんはコトバをどのように習得するか」(B・ド・ボワソン=バルディ著、加藤・増茂訳、藤原書店)p.197

日本語乳児は、欧米語乳児より、**オノマトペ**
(擬態語、擬音語)が多い(種類も実は多い)

* オノマトペ

・擬態語

イライラ、くすくす、くるくる、しんしん、
きらきら、わくわく・・・

・擬音語

バタバタ、ガチャ、ワンワン、リンリン、
コケコッコー、ブーブー、ドカン・・・

単語の発声と種類(50語未満の子)

「赤ちゃんはコトバをどのように習得するか」(B・ド・ボワソン=バルディ著、加藤・増茂訳、藤原書店)p.198

日本語乳児は、欧米語乳児より、名詞の割合が少なく、動詞＋その他の割合が高い。

言語発達の過程（幼児期）

* 語彙 の種類 (英語)

名詞の
割合が
圧倒的
に高い。

よくわかる言語発達
(岩立・小椋編著),
ミネルヴァ書房, 2011),
小林氏執筆 p.41
原典: Bates et al.,
1994, p.95

言語発達の過程（幼児期）

* 語彙の種類 （日本語）

名詞の割合
が高いが、
欧米語より、
名詞の割合
低い

よくわかる言語発達
（岩立・小椋編著），
ミネルヴァ書房，2011），
小林氏執筆 p.41
原典：小椋，1999，p.184

幼児の初期語彙発達

・名詞か動詞か？・・・**名詞が有利**

名詞－事物の名前

動詞－関係を表す語

動詞、他の関係語は、**子どもがどのような状況と語が結びついているかを気づく必要があり、難しい(?)**

⇔乳児でも運動概念をある程度獲得している(?)。初期の語彙に動詞や関係語も含む。

心理Ⅱ

(11/21概要)

上原 泉

幼児の初期語彙発達

名詞が獲得されやすい理由

事物全体バイアス（新奇な語をきくと事物全体を指すと仮定する）

形バイアス（形が似ているものを同じカテゴリーと仮定する）

....

視覚的（触覚的、感覚的）に判断しやすい（？）

幼児の初期語彙発達

- ・名詞の学習も単純ではない。

固有名詞と一般名詞
物質名詞の区別は？

幼児の初期語彙発達

実験例：(標準刺激は)ネケだよ。ネケを
選んでください。

リボンのみ色違うなど
別個体であることだけ

形類似色サイズ異なる 生き物という点同じ

幼児の初期語彙発達

実験例：(標準刺激は)ネケだよ。ネケを
選んでください。

幼児の初期語彙発達

実験例：(標準刺激は)ネケだよ。ネケを
選んでください。

固有名詞解釈(標準刺激のみみなす)
は少ない。

→カテゴリーとして認識。
基礎カテゴリーとしてみなす。

(なぜカテゴリーを指すと想定するのか?)

幼児の初期語彙発達

「制約」

事物全体バイアス（属性ではなく事物全体の名前と想定）

事物カテゴリーバイアス（固有名詞ではなくカテゴリーと想定）

形バイアス（形が似ているものが同じカテゴリーと想定）

相互排除性バイアス（モノにつくカテゴリー名は1つ）

固有名詞は？

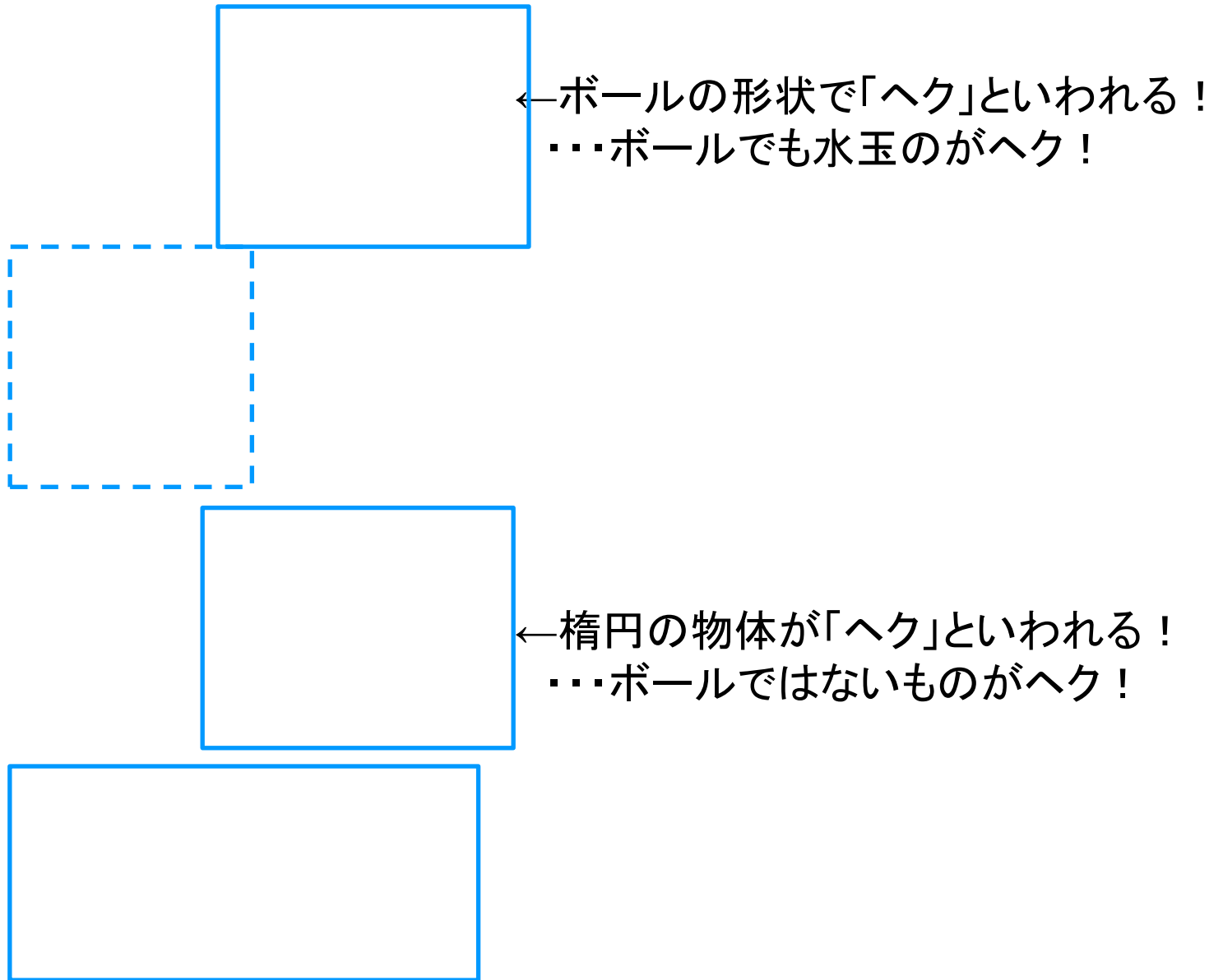
- ・既知の単語に新しい語が示されると
固有名詞か下位カテゴリー名とみなす

p.50-51.「レキシコンの構築(今井・針生著), 岩波書店」

幼児の初期語彙発達

- ・新しい語を付与された対象が、既知カテゴリーと類似していない場合は新しいものに、類似している場合は、下位カテゴリーとみなす。

→次ページ(新語「ヘク」導入)



p.60.「レキシコンの構築(今井・針生著), 岩波書店」

- ・・見た目は似ていなくとも、操作して機能的に類似しているとき、下位カテゴリーとみなすようにもなる。

→語の階層性の理解へ

上位カテゴリーの学習は？

メタ知識の発達が前提。

* メタ知識：知識に関する知識

物質名の学習

素材に注目しなければならない。

英語圏では文法が手がかかり。

(固有名詞と同様に、a,-sがつかない。)

2歳半頃、可算名詞と不可算名詞を区別する。2歳前半は文法手がかかり使えない。

日本語は違う！

やわらかくて、安定性の低いものに

新しい語が使われると、

素材に注意がいく(??)

メタ知識を持っていると→急速な語彙学習

幼児の初期語彙発達

・動詞学習の研究

どこまでが「投げる」を指す行為なのか？

自動詞は主体だけ。

他動詞は、主体と客体が必要。

主体、客体は変数！・・・この理解が難しい。

10ヶ月でも動作イベントをまとまりに区切れる（？） ■ ■ Baldwin, Baird, Saylor & Clark (2001)

Baldwin, Baird, Saylor & Clark (2001)

馴化) 女性が床にタオル落ちているのを見つけ、手をのばし、そのタオルをつかんで持ち上げタオルかけにかけるビデオ。

テスト)

1. 床のタオルをつかんだ
ところで静止しその後
同じ(動作終了)

2. 床のタオルとろうと腰
をかがめた所で静止
その後同じ(動作途中)

p.79.「レキシコンの構築(今井・針生著),
岩波書店」

→2を長く注視する！

幼児の初期語彙発達

・動詞学習の研究

感覚様相間(モダリティ間)選好注視法IPLP

(→先のスライドで例呈示、次ページ参照 Intermodal preferential looking paradigm)

中央のスピーカーの両脇にモニター
スピーカーから音声＋両画面に映像。
1方は音声にマッチ, もう1方はマッチ
しない。マッチしている方を選好注視。

赤ちゃんによる音声(言葉)の理解

「赤ちゃんはコトバをどのように習得するか」
(B・ド・ボワソン=バルディ著、加藤・増茂訳、藤原書店)p.133

←測定装置

例えば、「トラックはどこ？」という音声に続き、2画面に「トラックとりんご」が呈示され、どっちを長くみるか(音声と結びつけられるか)をみる。

幼児の初期語彙発達（配布）

・動詞学習の研究

Baldwin, Baird, Saylor & Clark (2001)

10ヶ月でも動作イベントをまとまりに区切れる(?)

Maguireら(2002)

18ヶ月児は新しい動詞を別の動作主の同じ動作に般用できなかった。

・・・→ 1回で新しい動詞の般化はできない(?)

幼児の初期語彙発達

- ・動詞学習の研究(幼児3、5歳)

Imaiら(2005)

p.82.「レキシコンの構築
(今井・針生著), 岩波書店」

動詞の学習

ネケはどっち？（名詞条件）

ネケっているのはどっち？（動詞条件）

名詞条件：「ネケがある」

動詞条件：「ネケっている」

動詞の学習

3歳児では名詞対応はできるが
動詞対応は難しい。

p.83.「レキシコンの構築(今井・針生著), 岩波書店」

幼児の初期語彙発達

・動詞学習の研究

Imaiら(2005)

同じモノを使って、同じ動作が行われて
いれば、**3歳児**は同じ動詞を適用可。

モノを変数化できず、

「**特定のモノで行う特定の動作**」理解(？)

・→ 1回で新しい動詞の的確な理解は
難しいのでは(？)

幼児の初期語彙発達

・動詞学習の研究

→動詞に適切な概念を即、的確に対応づけられるのは5歳頃から

……実験では、新奇で過大な要求？

動詞の学習

動作の主体や対象は変数で
動作が同じなら、(新語を)適用できるという
原則に従って、新語(動詞)の意味を
推論できる→ 5歳以降

2, 3歳でも動詞使用できるが、
動詞使用に関する
抽象的な知識(メタ知識)としての理解
が不十分。(客観的な概念理解不足)

動詞の学習

動詞学習の難しさ

- ・指示対象の切り出し「どこからどこまでの行動を指すか」
- ・自動詞、他動詞の理解
- ・買うー売る、渡すー受け取る、貸すー借りる
- ・・・・小学校低学年でも難しい。

動詞の学習

学習の手がかり

英語：語順

日本語：助詞、助動詞

正確な理解に達するには、
文法の学習と密接な関係

・日本幼児の早期動詞理解(表8-5)

具体性の高い動詞, 抽象性の高い動詞(心的状態の動詞)

p.187.「心理学研究法一発達(山口・金沢編著), 誠信書房, 2011)」

メンタルレキシコンの構築

メンタルレキシコン: 心的な語彙辞書

- ・名詞はすぐにマッピング可能。
- ・動詞や形容詞はマッピング難。狭い範囲から使用し始め徐々に把握。
- ・新しい語が加わると、既にレキシコンに存在していた他の語の意味修正や再編成。

心理Ⅱ

(11/28)

上原 泉

メンタルレキシコンの構築

メンタルレキシコン: 心的な語彙辞書

- ・名詞はすぐにマッピング可能。
- ・動詞や形容詞はマッピング難。狭い範囲から使用し始め徐々に把握。
- ・新しい語が加わると、既にレキシコンに存在していた他の語の意味修正や再編成。

メンタルレキシコンの構築

- 個々の単語の意味と抽象的知識の構築
- レキシコンに含まれるのは、各単語の意味のみならず。
使われ方、他の語との関係性、同じ意味領域の単語との共通点と違い等。

* 言葉と概念

** 子どもの研究が僅少で不明な点が多い。*

- 言葉・・・カテゴリー（概念）へのラベル

カテゴリー化→概念、言葉の形成

しばしば、概念・・・言葉

概念間には階層構造をなしている。

上位概念、下位概念

* 言葉と概念

概念と概念の境界は？・・・曖昧

「グラフィック 認知心理学」(森敏昭・井上毅・松井孝雄[共著]、サイエンス社、1995) 3章井上毅氏担当執筆, p.61.

* 言葉と概念

概念と概念の境界は？・・・曖昧

発達初期

プロトタイプ理論(ロッシュら)

典型(プロトタイプ)

・・・概念を代表する典型的な例

を中心に、概念の特徴を把握して
形成していく。

* 言葉と概念

典型(プロトタイプ)

・・・概念を代表する典型的な例

「グラフィック 学習心理学」(山内光哉・春木豊[編著]、サイエンス社、2001) 6章田中孝志氏担当執筆,
p.177.

* 言葉と概念

典型(プロトタイプ)

「グラフィック 認知心理学」(森敏昭・井上毅・松井孝雄[共著]、サイエンス社、1995) 3章井上毅氏担当執筆, p.63.(表の原著:遠藤由美・井上毅・梅本堯夫(1985) 小学生、中学生、高校生における基本カテゴリーのティピカルティ評価値—児童、青年の知識構造 梅本堯夫(研究代表) 認知と遂行の関係に関する研究 昭和58, 59年度科学研究費補助金研究成果報告書 Pp.103-116.)

* 言葉と概念

概念の獲得と発達

Olver R.R., & Hornsby, J.R.
(1966) On equivalence.
In Bruner, J. S., Olver, R.R.,
& Greenfield, P.M. Studies
in cognitive growth. New
York: Wiley. 岡本夏木・
奥野茂夫・村川紀子・
清水美智子(訳) 1971
人尻能力の成長 上・下
明治図書

類似したものを
分類させる課
題の実施

* 言葉と概念

概念の獲得と発達

分類の基準

知覚的属性を基準

- ・例：丸いもの、色が似ている

機能的属性を基準

- ・例：計るもの、料理用の器具

エンピツ

フルート

アコーディオン

* 言葉と概念

知覚的属性→機能的属性に基づく分類へ

Olver R.R., & Hornsby, J.R.
(1966) On equivalence.
In Bruner, J. S., Olver, R.R.,
& Greenfield, P.M. Studies
in cognitive growth. New
York: Wiley. 岡本夏木・
奥野茂夫・村川紀子・
清水美智子(訳) 1971
人尻能力の成長 上・下
明治図書

「グラフィック 学習心理学」(山内光哉・春木豊[編著]、サイエンス社、2001) 6章田中孝志氏担当執筆,
p.179.

* 言葉と概念

概念間は階層構造をなしている。

上位概念、下位概念

基礎水準の概念からの学習

徐々に、上位概念↑、下位概念↓へと
概念知識の階層構造を構築する。

* 言葉と概念

概念の階層構造例

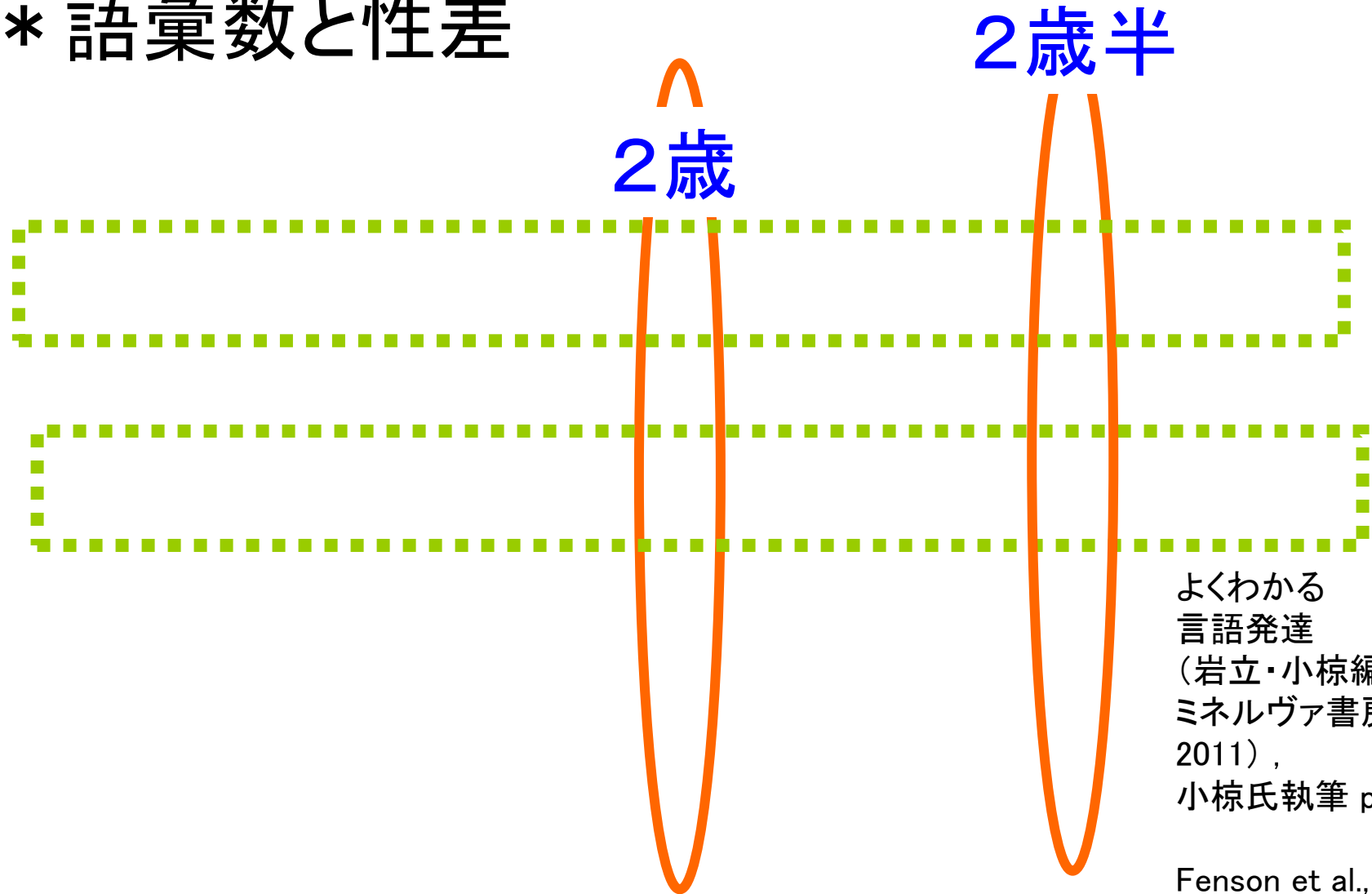
Atkinson, R.L. et al.(1996)
Hilgard's introduction
to psychology.(12th ed.).
Fort Worth: Hartcourt Brace
College Publishers.

基礎

「グラフィック 学習心理学」(山内光哉・春木豊[編著]、
サイエンス社、2001) 6章田中孝志氏担当執筆, p.177.

言語発達過程（幼児期）

* 語彙数と性差



よくわかる
言語発達
(岩立・小椋編著),
ミネルヴァ書房,
2011),
小椋氏執筆 p.66.

Fenson et al., 1994,
p.80

言語発達の過程（幼児期）

* 語彙数と性差

2歳0ヶ月頃で、300前後の語彙を表出

2歳6ヶ月頃で、500前後の語彙を表出

若干性差あり（女児のほうが早い）。

言語発達の過程（幼児期）

* 平均発話長（MLU）

100個のサンプルが1発話あたり平均何個の形態素を含んでいるかを表したものの。形態素とは意味をもつ最小単位。

例) Wanted・・・wantとedの2形態素

例) 「公園 | 行っ | た | ね」・・・4形態素

言語発達の過程（幼児期）

* 平均発話長（MLU）

24-26ヶ月（2歳頃）・・・1.5-2.0程度

35-40ヶ月（3歳過ぎ）・・・3.0-3.75程度。

（2歳で平均発話長が2.0であっても、それ以上の発話もある）

（Brown, 1973; 綿巻, 2001）

個人差が大きく、3歳で4.0を超えているケースもある。

言語発達の過程（幼児期）

2歳頃になり、二語発話が出てき始めると「助詞」も出てくる。

終助詞

・・・→接続助詞、格助詞、副助詞

言語発達の過程（幼児期）

・幼児同士のコミュニケーションの特徴

誰かが言語や行動を発しても、3, 4歳以下では、半分以上で応答がない（独り言や独り行動の割合が多い）。

6歳頃になると、7, 8割応答し、長いやりとりで、1つの話題を展開していく。

言語発達の過程（幼児期）

・幼児同士のコミュニケーションの特徴

3, 4歳以下では、非言語的な発信の割合が大きい（5, 6歳では非常に少ない）。

応答するとしても、3歳以下では、半分以上が模倣（5歳になると極端に減る）。

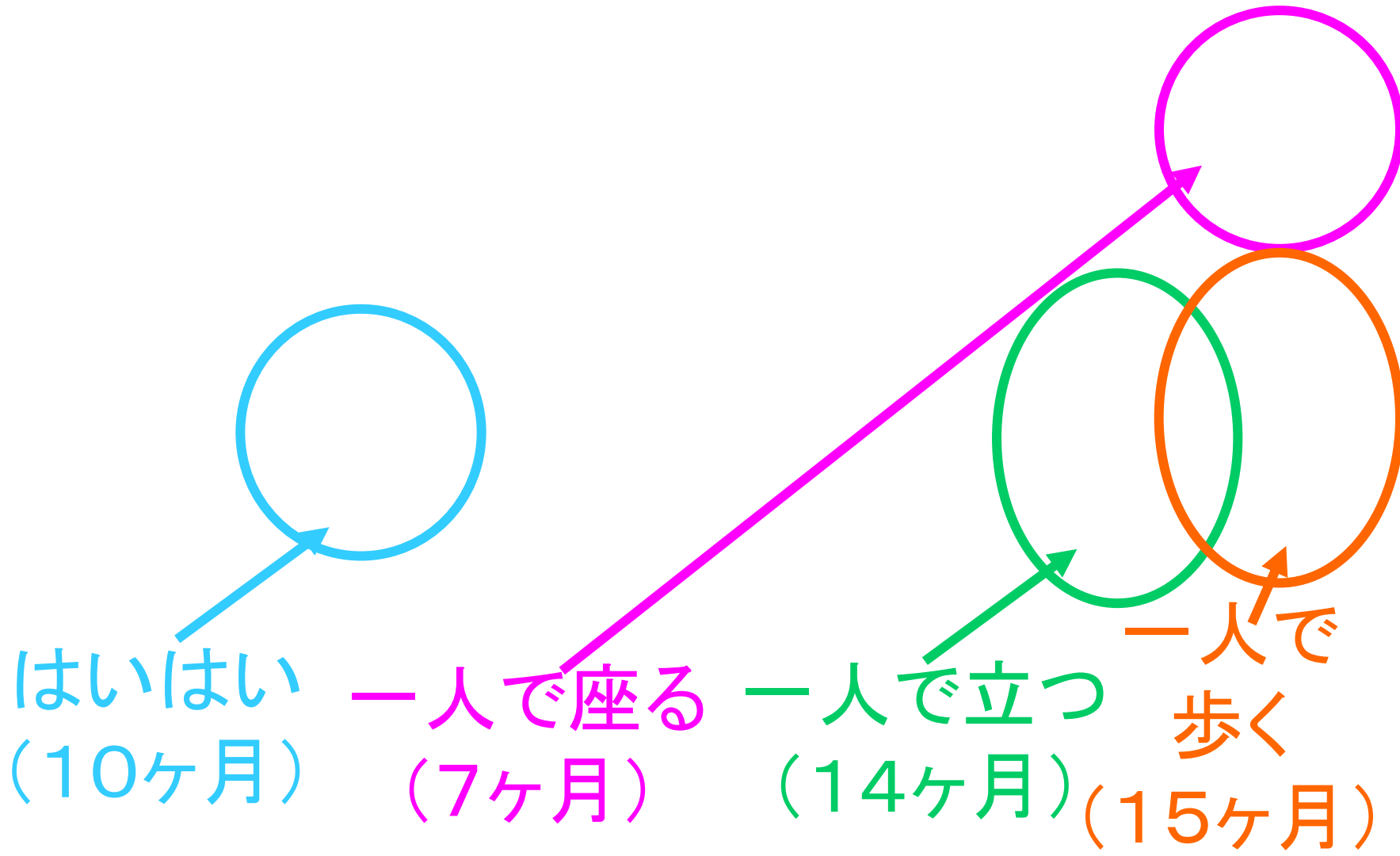
心理Ⅱ (運動の発達)

上原 泉

(橘川, 2001, p.44; Shirley, 1933)

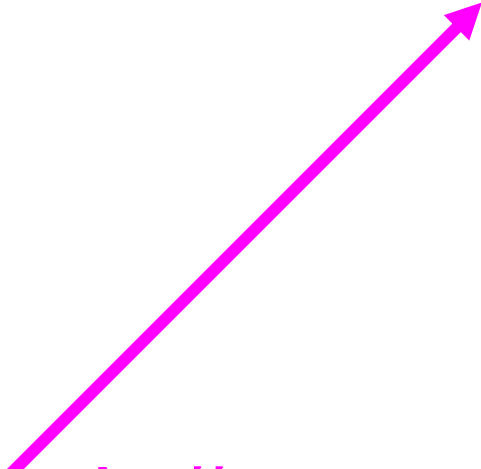
運動の発達

橘川真彦 (2001). どこまで大きくなるの
—運動能力と身体の発達 川島一夫(編
著) 図で読む心理学—発達【改訂版】
福村出版



運動の発達

6ヶ月未満
は物をよく
握れない。



指でつまむことが可能
になるのは1歳超えて



「図で読む心理学—発達—」(高野監修, 川島編, 福村出版), p44-45内
つかみ方の発達 (Halverson, 1931; 橘川, 2001)

運動の発達

4歳頃に発達的变化が大きい。

落合優・橘川真彦 (1981). 幼児の手先の技能の発達 横浜国立大学教育紀要, 21, 21-36.

「図で読む心理学—発達—」(高野監修, 川島編, 福村出版), p44-45

ここでちょっと・・・

視覚の発達・・・・・・2, 3ヶ月頃

（奥行き知覚, 眼球運動, 恒常性・・）

コミュニケーション・記憶・・10ヶ月頃

（音声知覚・共同注視, 保持量・期間・・）

エピソード記憶（自伝的記憶は後）・・4歳頃

スクリプトの発達・・・・4歳頃

3, 4歳頃までの出来事の報告は怪しい。

4歳前後は幼児期の認知発達において、
変化が著しい時期

原始反射とその消失

原始反射：生後まもなくからみられる反射
生後4～5ヶ月頃に消失。

→反射から随意運動へ

消失すべき月齢になっても残存している
場合は、中枢性の障がいの疑いがもたれる。

原始反射: バビンスキー反射

足の裏を後ろ
から前にさする
と外に指が扇状
にひろがる。

脳卒中発作をおこ
した高齢者の場合
も同様。

原始反射: モロー反射

新生児を突然下にさげたときに、手と足を大きく外にのばし抱きつくかのように両腕を身体の方にまげる。

「乳児の脳とこころ」(レスタック, R. M.著, 1986; 河内・高城訳, 新曜社, 1989)p.179

原始反射：モロー反射

驚愕反射とも。仰向けに寝かせているときしがみつくように四肢を突然はねあげる。
(自閉症児ではみられない?)

「乳児の脳とこころ」(レスタック, R. M.著, 1986; 河内・高城訳, 新曜社, 1989)p.179

原始反射：吸てっ反射

口にもものがふれるとちゅうちゅう吸い出す。
哺乳のために必要な，触刺激に対する反射。

原始反射：自動歩行

脇下でささえ足を床につけ，前に少し傾けると，下肢を交互に屈曲，伸展させる。

原始反射：把握反射

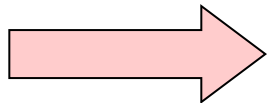
欲しいものをにぎり離すことができるまでに
脳が発達するのは生後7ヶ月になってから

原始反射

生後しばらくは反射運動が多いが、**しだいに
随意運動へ**



原始反射の検査は**障がいの発見**
に役立っている(**4, 5ヶ月頃**)。



もっと早い時期に予見できないか・・・

ジェネラルムーブメント

新生児期からさまざまな自発的な運動。
特定のカテゴリーに分類することのできな
い奇妙な運動。

 「ジェネラルムーブメント」

ジェネラルムーブメント(GM)の特徴

- 数秒から数分持続する手足を含めた全身運動。カオス的，意味不明。
- 新生児期からみられ，さまざまな運動を包含。後に特定の運動が次々と分化（GMの終了，3ヶ月頃）。

心理Ⅱ

(12/5)

上原 泉

* ジェネラルムーブメント(GM)の発達的变化

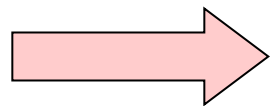
1ヶ月(新生児期:ライジング(writhing))
手足を含む全身の粗大運動

2ヶ月頃フィジエティー(fidgety)
全身の各部分の屈伸を繰り返す。

3ヶ月頃
GMらしい運動は徐々になくなっていく。

ジェネラルムーブメント(GM)

なんらかの**中枢性の障がい**がある場合、
ライジングやフィジエティーのパターン
がずれている(?)



原始反射より早い時期(2ヶ月前後)
に予見できる可能性あり。
ただし判定、診断が難しい。

乳幼児期の社会性や他の認知 発達

上原 泉

乳幼児：社会性の発達

自発的微笑と社会的微笑

自発的微笑：生理的微笑。新生児の覚醒水準が低下したときに見られる「微笑」
←養育者は高い頻度で正の反応。

社会的微笑：周囲の人の顔や声に反応して生じる微笑。3ヶ月頃から。
对人的関係を志向しての微笑。

乳幼児：社会性の発達

分離不安

子どもが、親（養育者）から離れることに対して示す不安反応。

乳幼児：社会性の発達

分離不安

2～3ヶ月頃まで：誰に対しても反応する。

6～7ヶ月まで：家族やよく知っている人に対して微笑みかける。

7～8ヶ月：人見知りの始まり。

特定の愛着の対象に対して積極的に近づこうとしたり自分のそばから離れると抵抗する(1歳半頃まで)。

乳幼児：社会性の発達

分離不安

分離不安の示し方によって愛着形成の様子を調べるのがストレンジ・シチュエーション法

乳幼児：社会性の発達

ストレンジ・シチュエーション法と愛着測定。

市川伸一（編）心理学測定法（サイエンス社），向田久美子（編著） 発達心理学概論 他

ストレンジ・シチュエーション法と愛着測定。

(1歳頃の子どもで実施)

A型(回避型): 親との分離に混乱しない。

親が戻ってきても避けたり無視。

B型(安定型): 分離に混乱を示すが、

再会すると落ち着く。

C型(反抗型, アンビバレント型): 分離で極度に不安がる。再会後は親に怒りを向けなかなか機嫌が直らず。

近年、 D型(無秩序型)への分類もされる。

* 文化差あり(欧米でA型が、日本ではC型が多い傾向)。

乳幼児：社会性の発達

心の理論

「ある行動を理解したり予測したりする方法として、自分自身や他者に特定の精神状態を帰属させる健常児の能力」(Baron-Cohen, S., *et al.*, 1993; 田原 俊司 監訳 1997, p.3)

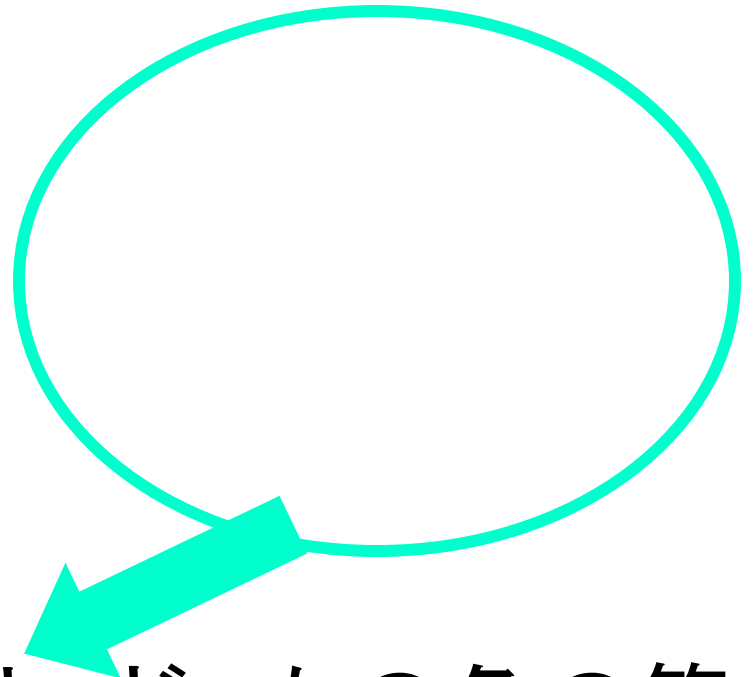
「心の理論をもつ」とは、簡単にいうと
「人の心を推測できること」

乳幼児：社会性の発達

子どもが心の理論をもっているか否かを調べる方法が誤信念課題

誤信念課題の概要

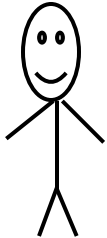
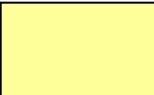
発達-記憶, 心の理解に重点をおいて-「想像:
心と身体の接点」内(上原, 2003)p.125
(発達心理学概論, 向田編著, 「幼児期の発達:
言葉と認知」(上原, 2017)p.89)

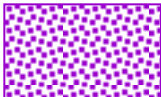


対象児への質問:この人は、どっちの色の箱
にチョコレートが入っていると思っているのか?

乳幼児：社会性の発達

子どもが心の理論をもっているか否かを調べる方法が誤信念課題

正答：「 は （黄色の箱）に入っていると思っている」。

3歳では難しく（×「に入っている」と思っている」と答える）、4歳頃から可能になる。

乳幼児：社会性の発達

子どもが心の理論をもっているか否かを調べる方法が誤信念課題

* 誤信念課題の理解：一次的信念の理解
「Aさんが〇〇だと思っている」

Cf. 二次的信念の理解（→児童期、後述）
「『Aさんが〇〇だと思っている』と
Bさんが思っている」

乳幼児：社会性の発達

想像力の発達

ふり、見立て、ごっこ遊び

→子どもの想像力の発達にとって、
これらの遊びは重要。

ただし、乳幼児期は現実世界と
想像世界の区分は曖昧。

乳幼児：社会性の発達

自分・他者の性格等の意識

幼児期初期までは、
「自分は・・・いう人」という意識が希薄。
他者に関しても、「〇〇は・・・いう人」
という意識は希薄。

過去のエピソードの積み重ねから・・・
(←エピソード・自伝的記憶の積み重ね)

4歳頃以降

乳幼児：その他の認知発達

モノの永続性の理解

生後4ヶ月：

おもちゃにハンカチをかけると、手をのばさない。

生後7, 8ヶ月頃まで：

布で一部だけ隠されたものはとろうとするが、全部おおわれると、手をのばさない。

生後8, 9ヶ月以降：

布に隠された物体を探すようになる。

乳幼児：その他の認知発達

モノの永続性の理解

生後8, 9ヶ月以降：

布に隠された物体を探すようになる。

→ただし、別の布の下に移すと見つけられなくなる(くり返し最初場所を探す)。

手から布の中へは可能。

乳幼児：その他の認知発達

生後8, 9ヶ月で× → 1歳半頃に○となる。

レスタック, R.M. 著
(河内・高城訳)
「乳児の脳とこころ」
(新曜社, 1989)
p.227

乳幼児：その他の認知発達

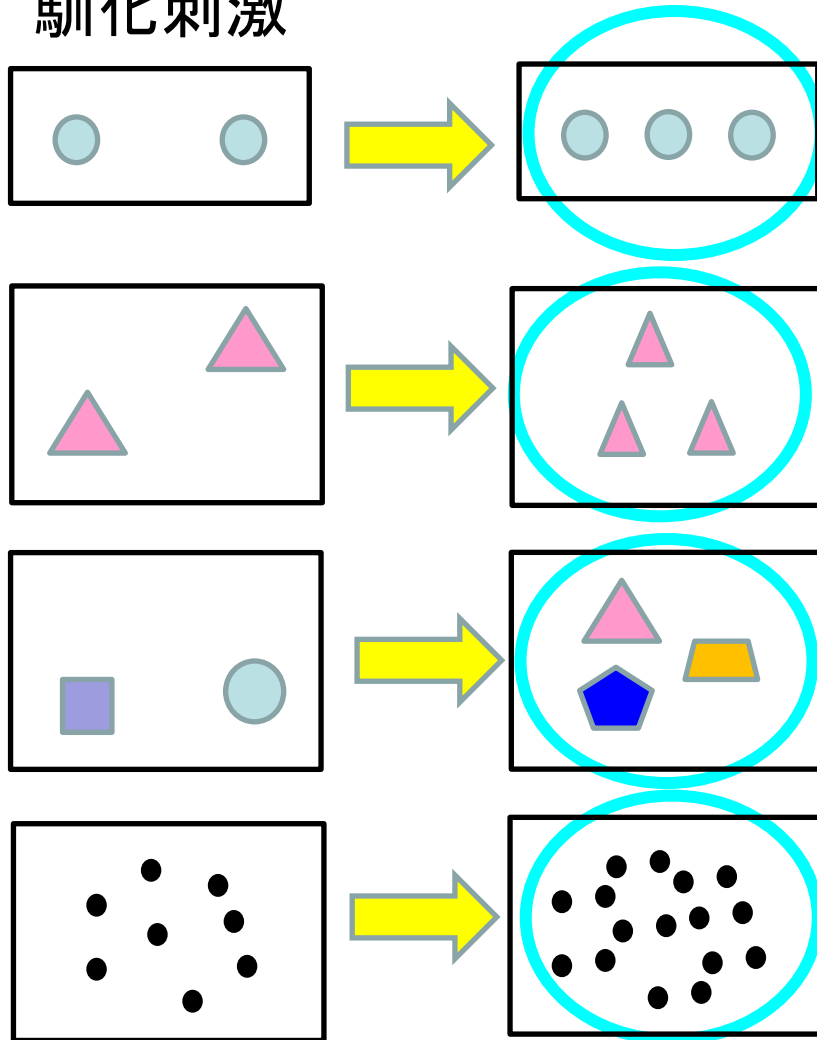
1歳半頃に「モノの永続性」の理解成立

- ＊ 眼前にない場合でもモノが存在し続けることの理解

乳幼児：その他の認知発達

5ヶ月乳児での数の理解：

馴化刺激



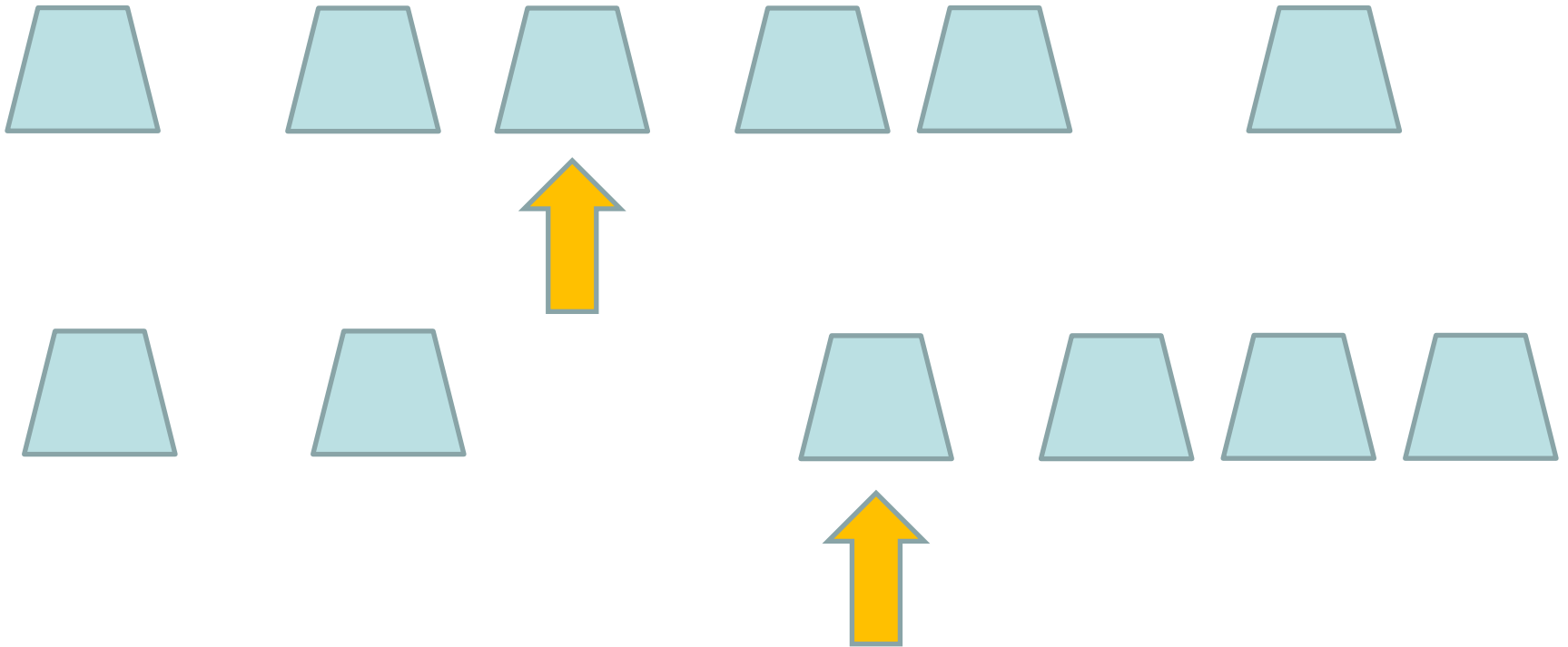
~~5個 → 6個~~
~~7個 → 9個~~
~~8個 → 12個~~

乳幼児：その他の認知発達

乳幼児の数の理解

1歳半での序数の理解

コップの個数3～6個に変える。



児童期の認知発達と学習

上原 泉

児童期：認知発達

- ・低学年（1，2年）の特徴

一次的ことば（話しことばのみ、親しい人との間の1対1の直接会話）に加え

二次的ことば（話しことば＋書きことば、不特定多数の人に向けた）の発達

＊ 発表や話し合いを通して、二次的ことばの発達を促す。

児童期：認知発達

・低学年（1，2年）の特徴

数の理解

min方略（最少法）： $5+9 \rightarrow 9+5$ とし9から順に5回数える。

検索：過去の計算結果の記憶

分解手法： $5+9 \cdots 5+10=15$ より1少ない。

$$3+8 \cdots (3+7)+1$$

幼稚園までは、カウンティング（計数）、せいぜいmin方略で計算だが、検索，分解手法が増え，方略の使い

分けも→**桁数の多い足し算や引き算の演習**

心理Ⅱ

(12/12)

上原 泉

児童期：認知発達

- ・低学年（1，2年）の特徴
 - 国語指導との関連
 - ・・・「読む・書く」訓練と漢字学習
 - 算数指導との関連
 - ・・・計算訓練と暗算
- ＊ 繰り返し練習と基礎学力の獲得

児童期：認知発達

・低学年（1，2年）の特徴

自己認識と自己統制

禁止されている行動に対して、外部からの統制ではなく、自己統制ができるようになってくる。子ども自ら、してはいけないことを言葉にするように導くと、禁止行動が抑制されやすい。

ただし自己評価と他者評価にずれあり。

児童期：認知発達

- ・中学年（3，4年）の特徴

自己認識

低学年よりは、自己評価と他者評価
に一致部分も出てくるが、まだ自己評価
のほうが甘くなりがちである。

児童期：認知発達

- ・中学年（3，4年）の特徴

他者との関係

閉鎖性の強い徒党集団の形成

リーダーシップ形成

- ・近年は，集団遊びが減り課題。

児童期：認知発達

・中学年（3，4年）の特徴

因果的推論能力の発達

8歳頃を過ぎると、**事象の共変性にもとづく因果関係の推論**が可能になる。

例)

「緑の箱にビー玉落とした5秒後にベルが鳴るがオレンジの箱にビー玉落としても鳴らない」を繰り返し見せる。

「緑の箱にビー玉を落とした5秒後にオレンジの箱のビー玉落とすと直後にベル」

児童期：認知発達

“9歳の壁”：教育上の問題？

3年と4年
を境に
学習遅滞
児数が大きく
変わる。

子安増生（編著）
「よくわかる認知発達
とその支援」
（ミネルヴァ, 2005）
藤村亘之氏担当項目
p.135
原典：天野清・黒須俊
夫（1992）小学生の国
語・算数の学力 秋山
書店

児童期：認知発達

- ・中学年（3, 4年）の特徴

“9歳の壁”：教育上の問題？

国語：「ことばのことば化」（ことばの意味を別のことばで説明）

算数：「記号の記号化」（分数，比例等2つの数の間の関係を別の記号として表現）

抽象度の高いレベルでの一般化
や概念化された思考

児童期：認知発達

- ・中学年（3，4年）の特徴

道徳性と社会的要因

（ピアジェの道徳性の課題）

悪いのはA，Bどっち？

7歳頃は，Aが悪いとする判断多い

（15個も割ったから）

9歳頃になると、Bが悪いとする判断多い。

（「盗み食いしようとした」意図が悪い）

結果論的判断→動機論的判断へ

＊ただし社会的要因も考慮する必要あり。

児童期：認知発達

- ・中学年（3, 4年）の特徴

二次的信念の理解（→心の理解の発達）

“アンはボールがバスケットに入っている
と考えている、とサリーは思っている”

* 二次的信念の課題

Perner & Wimmer (1985)

- 1) メアリーはアイスクリーム買ったかったがお金を忘れた。アイスクリーム売りはメアリーに「**午後はずっとこの公園で売っているよ**」と言う。
- 2) メアリーはお金をとりに家に帰り、ジョンは公園に残った。アイスクリーム売りが移動しようとしたので、ジョンは「どこへ行くの？」ときくと、アイスクリーム売りは、「**教会だよ**。ここでは買ってくれる人が少ないから」と言う。
- 3) アイスクリーム売りは教会へ移動する途中、メアリーの家の前をとおり、(メアリーがどこへ行くかたずねると)「**教会へ移動する**(そっちの方がたくさん売れるから)」と言う。(なお、ジョンは、(アイスクリーム売りが)移動中にアイスクリーム売りとメアリーが会ったことを知らない。)

* 二次的信念の課題

Perner & Wimmer (1985)

4) ジョンが宿題を教えてもらおうとメアリーの家へ行くと母親が「メアリーがアイスクリームを買いに行くと言った」と言った。

日本語は、外山紀子・中島伸子(著)(2013) p. 152-155 より一部改変

ジョンはメアリーを探しに行きました。ジョンはメアリーがどこに行ったと思っていますか？

……二次的信念の理解を確かめる質問

⇒ 正答は公園

通常、9、10歳頃に二次的信念の理解が発達

*しかし、言葉だけだと、4年生で8割程度(原論文)、日本では絵本形式だと9、10歳で正答率↑(同じ質問を日本の大学生にしても、正答率90%届かない!!)

児童期：認知発達

- ・高学年（5，6年）の特徴

論理的思考の発達（形式的操作期）

比例概念の成立，仮説演繹的思考
例）

「AはBよりも髪の色が明るい。AはCよりも髪の色が濃い。では，A，B，Cの3人のうちで髪の色が一番濃いのは誰か」

このような問題が解けるのは11歳頃以降。

児童期：認知発達

- ・高学年（5，6年）の特徴

自己認識

自己評価と他者評価との間の相関が高くなる（評価が一致してくる）。

自己を批判的に見ることも可能になる。

児童期：認知発達

・高学年（5，6年）の特徴

将来展望

小学校までは、「あこがれ」的未来志向。
中学以降になると、現在の自分を意識し、
その延長線上にある未来を考えるように
（現実的な未来志向，将来展望）。

→ プランニングや行動制御，モニタリング
が能力を向上。

児童期の学習

- ・記憶容量自体に大きな変化はない。

単純な「暗記」ではなく、既にある知識との
関連づけが重要

→子ども自らが自発的に知識を関連づけて
学習し、知識構造を形成するよう導く。

児童期の学習

- ・繰り返しの学習

言葉による説明を記憶



繰り返し実行（訓練）



自動的にこなえるようになる（手続化）

児童期の学習

- ・目標を持つ

単純な試行錯誤のみでは進みづらい。

目標到達のためにどうしたらよいかを考える。
下位目標の設定等

 効率的な学習と知識の構造化

児童期の学習

- 例から学ぶ

抽象的な解説→例題→練習問題

例題の解説が重要。

例題を利用して練習問題を解くように促す。

＊ 補助プリント, テキスト作成

児童期の学習

- ・ 自己説明によって学ぶ

高得点群：例題学習時に自己説明と
知識の一般化がなされやすい。

低得点群：例題に依存。自己説明せず知
識の一般化がなされにくい。

児童期の学習

- ・メタ認知能力の向上

メタ認知＝認知についての認知
自己の認知活動に対する認識

例) 自分の学習の仕方はよいか。
自分の理解は十分か。
こうやって覚えるのがよい。

児童期の学習

・メタ認知能力の向上

自分にとってわかりやすく覚える

何がわかっていないかを知る

・・・適切な質問, 適切な情報の選択

＊メタ認知的技法の教授は難しい。
長期の学習訓練を通じて伝授。

児童期以降の 社会性、対人関係等

上原 泉

児童・生徒の関係

- ・友人の選択

相互的接近から、内面的なものへ
(次ページ参照)

小学校4年生ごろ、**ギャング・エイジ**
(同性、同年齢の仲間集団)
小学校高学年で**ギャング・グループ**を形成。

・友人選択 の発達変化

(田中, 1957参照)

児童・生徒の関係

・ギャング・グループ

このグループ行動を通じて、人づきあいの仕方を学ぶ。より男子で顕著。

最近、消失しつつある。→社会性の乏しさ、人づきあいの苦手感と関係？

・チャム・グループ（同性の親友集団）

中学生頃の仲間集団。より女子に顕著。同じ興味、関心をもつ親密で排他的なグループ。メンバーの共通性が重視。

→近年、肥大化。過度の同調性の問題

生徒の関係

・ピア・グループ

高校生以上で主にみられる男女混合の仲間集団。「対等な友人」関係。

共通性にこだわりすぎず，異質性を認める。

このグループ経験が，

アイデンティティの確立に寄与（？）

→近年，高校時代での形成が難しくなり，
大学以降で形成？。対人関係の希薄さ等
により，異質性をぶつけあって自己を確立
することが消失しつつある？

近年の友人関係に関して

ヤマアラシ・ジレンマ？

「表面的」関係, 「希薄」な関係？

親密な関係をのぞみながら傷つけあう
ことを恐れるという葛藤

(寒くてヤマアラシはくっつきあうが, お互いのトゲが痛くて離れる, この繰り返し。)
相手の動きをうかがう, 相手に執着する, 関わりそのものを避ける, といった対処？

生徒の関係

■ 集団規範

校則のようなルール以外に，生徒同士の暗黙の決まり。

集団規範は，集団にルールを守らせる圧力を持つ。

守らない，逸脱すると集団から排除されるという意識。

Cf. 集団圧力といじめ，同調の問題

心理Ⅱ

(12/19)

上原 泉

仲間関係と家族関係？

愛着関係が、その後の人間関係の良好さと、若干、正の相関あり(！？)

愛着理論 (Bowlby, J. ボウルヴィの仮説)

養育者(親)との安定した愛着関係

→ 安定した人間観や自己観に関する

内的ワーキングモデルの形成

→ 安定した仲間関係の形成へ

仲間関係と家族関係？

愛着関係が、その後の人間関係の良好さと、若干、正の相関あり（！？）

社会的ネットワークモデル

親子関係は仲間関係に直接影響しない。
自分の社会ネットワークの中で、様々な相互作用や人間関係を経験し形成する。

仲間関係と家族関係？

愛着関係が、その後の人間関係の良好さと、若干、正の相関あり（！？）

気質が重要？（Kagan, J. ケイガンの仮説）

気難しい子ども（感情表現激しく、生理機能が不規則）は、親子関係、仲間関係ともに不安定（？）

青年期～高齢期

上原 泉

発達と課題

・中学生～(大学生)

対人関係

「浅く広くかかわるつきあい方」から

「深く狭くかかわるつきあい方」へ

学習目標

遂行-接近目標(よい評価を得たい)

遂行-回避目標(よくない評価を避けたい)

熟達目標(努力して成長したいという目標)

自己実現的な目標

・・・後者2つの目標に基づく学習へ

発達と課題

- ・中学生～(大学生)

不安定な状態

対人不安： (cf.内在化された問題)

非行： (cf.外在化された問題)

発達と課題

- ・中学生～(大学生)
対人不安:

「はじめて出会う 心理学」(長谷川・東條・大島・丹野[著]、有斐閣アルマ、2000)、4章 丹野義彦氏執筆担当, p.69

図の原典:阿部和彦 (1985) 小児期および青年期における発達と対人恐怖的症状<視線恐怖, 赤面恐怖, 対話恐怖>. 精神科MOOK12, 70-75.

発達と課題

- 中学生～(大学生)

対人不安:

悩みが強い場合を「対人恐怖」という。

- 他者視線恐怖
- 赤面恐怖
- 自己視線恐怖
- 自己臭恐怖

対人不安傾向が強い時期であると同時に
対人関係が複雑になってくる時期。

発達と課題

- ・中学生～(大学生)

対人不安:

他者によい印象を与えたい, でも思い通りにいかないという心理が背景。

日本では多くの人にみられる(文化要因)。

発達と課題

- ・中学生～(大学生)

非行:

同一性拡散の状態(自分がいったい何者か、何をしたいのかわからないという不安定な状態)のときに、社会的に好ましくない人物像をモデルにする(否定的同一性の選択→次ページの図も参照)。

誘因の増大と抑止力の低下

発達と課題

「はじめて出会う 心理学」(長谷川・東條・大島・丹野[著]、有斐閣アルマ、2000)、4章 丹野義彦氏執筆担当, p.72

思春期以降の親子関係

心理的離乳

心理的自立。親の監督下から独立しようとする。完全自立は難しく、依存心との間で葛藤が生じやすい。

第2反抗期

他律的態度から自律的態度へ。
親の養育態度との関連で示され方は多様。

青年期の理論

エリクソンの漸成理論

人の各発達段階は、その前の発達段階の水準の上に築かれ、各発達段階で、与えられた環境の中で可能性を最大限に発揮する。

ライフサイクル

・・世代，人の一生（心理社会的に共通する）

青年期の理論

出所: Erikson & Erikson, 1997

白井利明(編著)よくわかる青年心理学(ミネルヴァ書房)第二版2015年, 白井利明氏執筆担当部分、P.14

青年期の理論

エリクソンの発達段階説

- ・自我の生涯にわたる発達に関する段階説。
→ アイデンティティの確立（青年期の課題）
- ・各段階：心理社会的危機と獲得されるもの
Cf. ジェネラティヴィティ（後述）→成人期
- ・前の段階の葛藤は後の時期に解決できるとする考え方。

青年期の理論

発達的文脈主義

- ・個人の発達に環境や文脈が及ぼす影響を考慮。
環境との相互作用のもとで多様に個人は発達する。(ラーナー)
- ・共発達：子と大人（親）が発達しあう。
.....→青年の自立へ

青年期の理論

発達の 文脈 主義

Lerner, R. M. (2002)
Concepts and theories of
Human development
(3rd ed.).
Mahwah, NJ: Lawrence
Erlbaum Associates.

白井利明(編著)よくわかる青年心理学(ミネルヴァ書房)第二版2015年, 白井利明氏執筆担当部分、p.15

青年期の理論

発達的文脈主義

- ・個人の発達に環境や文脈が及ぼす影響を考慮。
環境との相互作用のもとで多様に個人は発達する。(ラーナー)
- ・共発達：子と大人（親）が発達しあう。
.....→青年の自立へ
子→親→職場・・など、多様、多重な相互の影響

青年期の自己認識

自己認識と自己受容

理想自己と現実自己

学齡期（特に年少ほど）は、理想の自己を想定しにくく、現実の自己についても、現実的な判断ができず。

青年期の自己認識

自己認識と自己受容

理想自己と現実自己

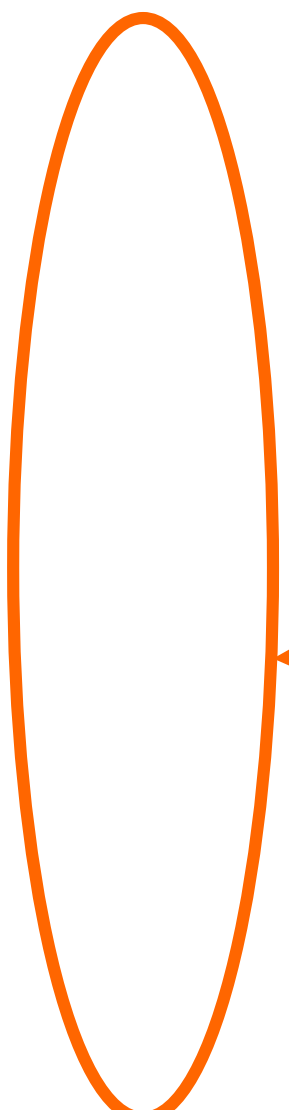
理想自己は年齢とともに上昇。

現実の自己概念は大学生で最低（自己批判が厳しい年代）

→大学生で、現実－理想のズレ最大。

自己認識と 自己受容

ズレは大学生
で最大。



Hess, A. L. & Bradshaw, H.L. (1970)
The Journal of Genetic Psychology,
117, 57-67.より

柏木恵子(著)子どもの「自己」の
発達(東大出版会, 1983)P.87

青年期の自己認識

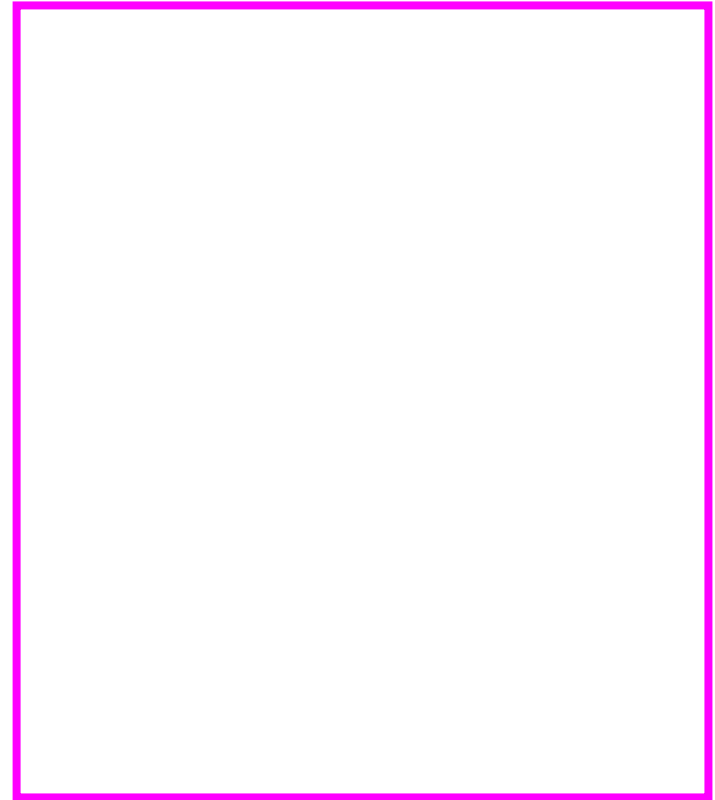
自己受容と性差

女性のほうが男性よりも、大学生の時期にかけて自己受容指数が下がる傾向にある。

女性のほうが男性よりも、大学生の時期にかけて自己批判指数は上がる傾向にある。

青年期の自己認識

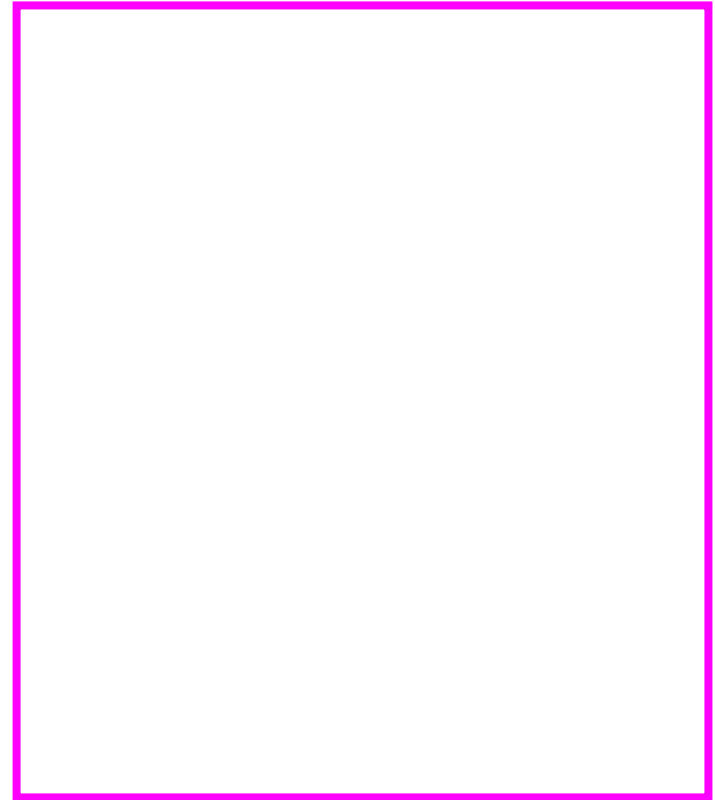
自己受容と性差(自己受容指数)



加藤隆勝 1977 青年期における自己認識の構造 心理学モノグラフ, 14. 東京大学出版会より
柏木恵子(著)子どもの「自己」の発達(東大出版会, 1983), p.92

青年期の自己認識

自己受容と性差(自己批判指数)



加藤隆勝 1977 青年期における自己認識の構造 心理学モノグラフ, 14. 東京大学出版会より
柏木恵子(著)子どもの「自己」の発達(東大出版会, 1983), p.92

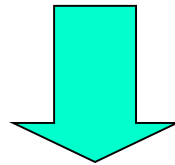
自己受容と性差（性役割観への意識と性差）

青年期になると、女子において、
自分の性に対して社会から期待されている
役割と自分自身がこうあるべきだ、こうあり
たいと考える理想の性役割像との間に
大きなズレや葛藤が生じやすい。

青年期の課題

: アイデンティティの確立と危機

アイデンティティの形成が青年期の課題
形成されれば、安定したアイデンティティが
保たれる？



近年では、成人期にいたっても、
アイデンティティの危機に直面しうる状況。
そのつど、アイデンティティの再確立を
していく。(生涯通しての課題)

アイデンティティの測定と分類

マーシャ (Marcia, 1966)

- ・「危機」を経験したか。
- ・重要な人生領域に「積極的関与 (コミットメント、傾倒)」したか。

→「アイデンティティ達成」「モラトリアム」
「早期完了」「アイデンティティ拡散」
に大きく4分類

アイデンティティの測定と分類

マーシャ

「アイデンティ
ティ達成」

「モラトリアム」

「早期完了」

「アイデンティ
ティ拡散」

(Marcia, 1966)

無藤清子(1979)「自我同一性地位面接」
の検討と大学生の自我同一性.
教育心理学研究, 27, 178-187.

向田久美子(編著)発達心理学概論
(放送大学教育振興会, 2017)10章
福島朋子氏担当執筆, p.155.

アイデンティティの測定と分類

大学生で
アイデンティ
ティ達成は
半分弱？
(Waterman et
al., 1974)

無藤清子(1979)「自我同一性地位面接」
の検討と大学生の自我同一性.
教育心理学研究, 27, 178-187.

向田久美子(編著)発達心理学概論
(放送大学教育振興会, 2017)10章
福島朋子氏担当執筆, p.155.

二大選択とモラトリアム

人生の二大選択

職業選択

流動的な雇用形態
キャリア発達の視点

結婚

価値観や社会構造の変化
「家庭」か「キャリア」か（？近年は？）

→近年、変わりつつある（未婚率↑）。

二大選択とモラトリアム

モラトリアム

大人になるための猶予期間？

発育加速現象と青年期終期の遅延化
(高学歴, 晩婚など)

就職や結婚が必ずしも基準とならない。

雇用形態の流動化等

モラトリアム期間も延長？

生涯通してのアイデンティティのゆらぎと確立

青年期の親子関係

親離れと子離れ，時代の変化

近年は親から子への投資の増大と長期化

親子関係に関する見方の変化

（参考資料：次ページの図）

青年期の親子関係

Santrock, J. W. (2003/2012) Adolescence 14th edition. McGraw-Hill.

白井利明(編著)よくわかる青年心理学(ミネルヴァ書房)第二版2015年, 平石賢二氏執筆担当部分、P.79

青年期のその他の課題（臨床分野）

内在化された問題

スチューデント・アパシー（学習意欲↓）
ひきこもり 等

外在化された問題

いじめ等

＊社会的支援やサポート、レジリエンス（回復適応力等）

成人期と課題

成人期初期

就職とキャリア発達

青年期の延長？（青年期が終わらない？）

離職の割合の高さ→職場の環境づくり

- ・**リアリティ・ショック**

（仕事への期待と現実のギャップ）

- ・**バーンアウト**（燃え尽き症候群。意欲の喪失。

人に関わる職種が多い？）

複数の役割観やワーク・ライフ・バランス

心理Ⅱ

(1/9)

上原 泉

成人期と課題

成人期初期

就職とキャリア発達

青年期の延長？（青年期が終わらない？）

離職の割合の高さ→職場の環境づくり

- ・**リアリティ・ショック**

（仕事への期待と現実のギャップ）

- ・**バーンアウト**（燃え尽き症候群。意欲の喪失。

人に関わる職種が多い？）

複数の役割観やワーク・ライフ・バランス

成人期と課題

中年期危機

成人期・・・成人初期、中年前期、
中年後期、定年退職期

中年前期と定年退職期に

アイデンティティの危機が訪れやすい。

身体的・心理的变化（衰え等）

重大事も起こりやすい。

＊ 中年期に必ずしも限定されない。

個人差あり。

向田久美子（編著）発達心理学概論（放送大学教育振興会,2017）
12章向田久美子氏担当執筆

成人期と課題

岡本祐子 (2007).
アイデンティティ生涯発達
理論の展開 ミネルヴァ書房
p.177.

岡本祐子 (1994).
成人期における自我同一性
の発達過程とその要因に関
する研究 風間書房

向田久美子(編著)発達心理学概論
(放送大学教育振興会, 2017)12章
向田久美子氏担当執筆, p.176.

成人期と課題

ジェネラティヴィティ

ジェネレーション(世代)＋クリエイティビティ(創造性)

・・生殖性、次世代育成性

次世代育成(子育て、後進育成、教育等)

次世代に向けた生産的活動

(ボランティア、社会活動等)

→葛藤、停滞、乗り越え導く。(近年、介護等)

ジェネラティヴィティ確立へ

高齢期

学術的には

初老：60歳頃～

老人：65歳～

＊ 特別養護老人ホーム入所可能年齢

・・・→定義変更？70歳～？

前期・後期高齢者・・・75歳が境

乳幼児期と老年期の類似点

身体性：行動的制約

関係性：他者への依存（介護，医療，経済）

高齢期

身体的側面：

身体能力の低下（肺活量，循環系）

知覚能力の低下（老眼，動体視力，高音部難聴など）

＊ 味覚・嗅覚・触覚の老化の進行は遅い。

高齢期

認知的側面（マイナスの面）：

流動性知能（情報処理の速度や能力、推理、新奇への適応力）の低下

動作緩慢、注意力の低下、反応時間の遅れ

認知症の発症率↑

＊ 長期記憶は老化しにくいが短期記憶は老化しやすい。→ 自伝的記憶の効能（！？）

高齢期

認知的側面（プラスの面）：

結晶性知能の向上

＝ 経験や教育によって形成される知能。
文化的知識。社会的知能（社会的関係に
関する問題解決など）。

責任・管理段階から、再統合段階へ。

高齢者集団の特徴：秩序あり。発想や行動
のルーティン化。コストは最小限。
新規の企画やアイデアは出にくい。

高齢期

自己意識と精神衛生：

孤独感。死への意識。

自己の生の振り返りと再構成

＊ ナラティブと自伝的記憶

自伝的記憶の語り(ナラティブ)

精神的健康や自尊心との関係

- ・思い出語り・高年齢者の精神的健康、自信↑
- ・ポジティブな記憶とネガティブな記憶

健康な高齢者の特徴！
ポジティブな記憶の想起割合が高いほど
精神的健康、自尊心↑

救済シーケンス・ネガティブな出来事の語り方

救済シーケンス・精神的健康、自尊心↑

汚濁シーケンス・精神的健康、自尊心↓

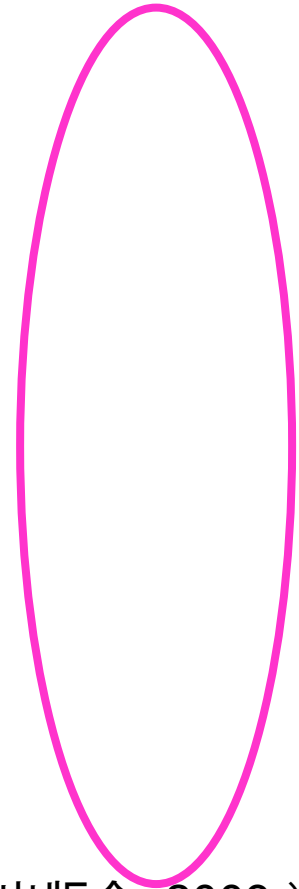
自伝的記憶の語り(ナラティブ)

→高齡者は、ポジティブな記憶(本来ネガティブでもポジティブな意味に解釈しなおした記憶)を想起しやすい？

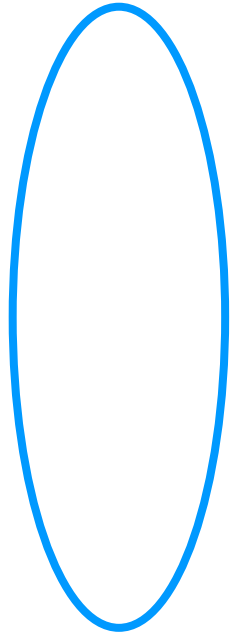
発達と文化差

上原 泉

しつけと文化差(日米)



しつけと文化差(日米)



東洋・柏木恵子・ヘス, R.D. (1981). 母親の態度. 行動と子どもの知的発達: 日米比較研究. 東京大学出版会
本) 家族心理学(柏木恵子(著)・東京大学出版会, 2003), p.177

米国において、自分の主張を重視する傾向。
日本において、従順、身のまわり自立、
感情制御、礼儀を重視する傾向。

しつけと文化差(日米)

米国において、自分の主張を重視する傾向。
日本において、従順、身のまわり自立、
感情制御、礼儀を重視する傾向。

……⇒コミュニケーションでもとめられるもの
にも差がある(！？)

絵本の読み聞かせ(文化差)

論文) 文化的学習としての母子の語り(1) (発達研究, 2006年, 柿沼・上村・静(著)), p.16

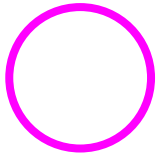
絵本の読み聞かせ(文化差)



悪い意図

良い意図

意図

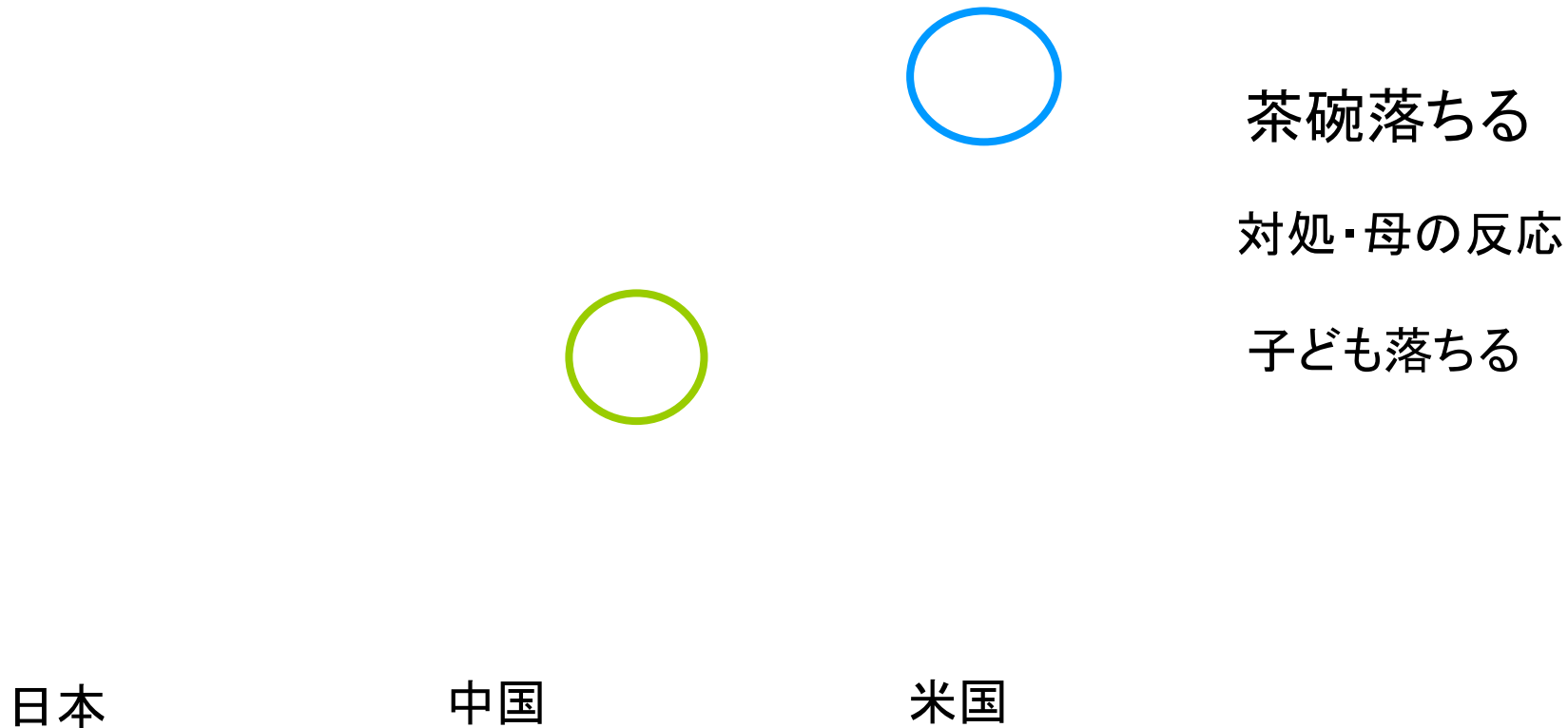


論文) 文化的学習としての母子の語り(1) (発達研究, 2006年, 柿沼・上村・静(著)), p.17

絵本の読み聞かせ(文化差)

- 善意の解釈→日本に特徴的。
- 悪意の解釈→中国で多い。
- 日本と中国で内面重視

絵本の読み聞かせ(文化差)



絵本の読み聞かせ(文化差)

- 日中が内面重視に対し、米国は対処法重視
- 中国で「子ども落ちる」言及多い傾向。
- 日本は大まかな事態の收拾を、米国は、具体的な行動の提示を示す傾向。

幼稚園のあり方(文化差)

論文) 幼児教育の文化的意味—日本, アメリカ, 中国における文化間および文化内比較—
(平成17-18年度科研基盤B研究成果報告書, 唐澤・林・松本・向田・トビン・朱(著)), p.39

幼稚園のあり方(文化差)

論文) 幼児教育の文化的意味—日本, アメリカ, 中国における文化間および文化内比較—
(平成17-18年度科研基盤B研究成果報告書, 唐澤・林・松本・向田・トビン・朱(著)), p.39

教育の文化差（日米の作文教育の例）



教育の文化差（日米の作文教育の例）

- 日本ではより時系列に書く傾向
- 米国では、他教育方法をみても、
より因果的に書くのが推奨される傾向

教育の文化差（日米の作文教育の例）

本）納得の構造—日米初等教育に見る思考表現のスタイル—
（東洋館出版社，渡辺雅子（著），2004），p.19

教育の文化差（日米の作文教育の例）

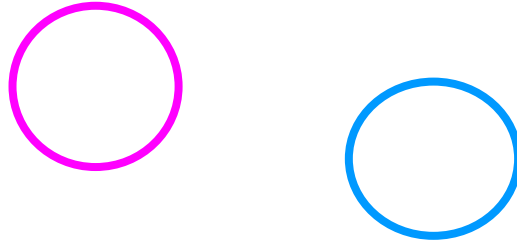
「感情的評価」：けんたがかわいそう，ジョンの心の中は・・・のようだった。

「規範・道徳的評価」：けんたが悪い，ジョンは罪の意識を感じた，自業自得・・・

「因果的補足」：ジョンはエースピッチャーだからおそらく・・・，疲れていて寝坊した・・・

「私見・アジェンダ」：書き手の独自の解釈，沈んだムードから抜けだすことによって一日がよくなる，このような日は二度と起こらない，

教育の文化差（日米の作文教育の例）



本）納得の構造—日米初等教育に見る思考表現のスタイル—（東洋館出版社，渡辺雅子（著），2004），p.32

ことばと文化差

- 相手をどうよぶか？ 姓？ 名前？ 敬称？

ドイツ語：“du”、“Sie”

アメリカ：名で呼ぶことが多いが、年齢・社会的に
力のある人が決める（？）

日本：公的には、敬称が基本
（肩書で呼ぶことも、「部長」）

日本では「**ウチ・ソトの区別**」も重要

お父さん・父、部長・〇〇(呼び捨て)

ことばと文化差

- 日本語における「はい／いいえ」と英語における“YES／NO”
- どのタイミングでどう謝罪するか。
- 褒められたときの反応（遠慮、謙遜）
- 自慢と自己表現
- （自伝的記憶の）語り口や語る内容

認知発達と環境

- 認知のメカニズムや基本的な発達の道筋はある程度共通する。(・・→認知発達研究)
- 文化、社会の影響(特に言葉に関わる部分)
性差、年齢差、地域差、教育環境等の差の影響もあり。
- コミュニケーションを通じて文化、常識が伝達される。

(Cf. ナラティブ、文化的ライフ・スクリプト)
→言語間で翻訳しにくい場合あり。

以下の問題に答えなさい。なお、解答の際には問題番号を明記すること(問1(1)等)

問1. 次の(1)～(4)に答えなさい。

- ① (①)は、一連の出来事の(時間的)つながりとしての知識表現・枠組みのことをいい、3歳頃までは①の形成は不十分だといわれている。①に入るもっとも適切な専門用語を答えなさい。
- ② (②)・グループとは、同じ興味や関心をもち親密で排他的な、中学生頃にみられる同性の仲間集団のことをいう。メンバー同士の共通性が重視される。どちらかという女子で顕著にみられる。②に入るもっとも適切な専門用語を答えなさい。
- ③ ピアジェは、認知発達について4つの発達段階に分けて説明する理論を提唱した。表象が可能になり象徴機能が発達してくる(ごっこ遊びが行われるようになる)のは、どの発達段階といわれているか。もっとも適切な時期を示す専門用語を答えなさい。
- ④ 3水準(前慣習の水準、慣習の水準、脱慣習の水準)6段階からなる道徳性の発達理論を提唱した学者の名を答えなさい(ファミリーネームのみでかまいません)。

問2. 以下の(1)～(3)のうち2問選んで答えなさい。選んだ問い番号を明記した上で答えなさい。

- ① 原始反射について、説明しなさい。
- (2) 誤信念課題について、説明しなさい。
- ③ 発達の最近接領域について、説明しなさい。

問3. 以下の(1)～(2)のうち1問選んで答えなさい。選んだ問い番号を明記した上で答

えなさい。

(1) 乳幼児期の記憶の発達過程について、測定法にも触れながら説明しなさい。

(2) 乳幼児期の視覚の発達過程について、測定法にも触れながら説明しなさい。

問4 以下の各用語が意味する内容に触れながら、以下のすべての用語を用いて、初期の（以下の用語が重要な意味を持つ時期の）非言語的なコミュニケーションの発達過程について説明しなさい。

（用語）二項関係、三項関係、共同注意、社会的参照

問5 小学校低学年（1，2年生）における発達の特徴や学校での学習内容について、小学校中学年（3，4年生）との違いも含めて、説明しなさい。

注意：以下のことを怠った場合には、不正行為として取り扱われることがある。

- ・試験中は、本人確認のため、常に学生証を机の上に置いて受験すること。
- ・机の上には、学生証の他、筆記用具、計時機能だけの時計（通信機能があるものは不可）、袋から出したティッシュペーパー、教員から特に認められた物以外は置かないこと。これ以外の物（筆入を含む）は見えないよう鞆等に収納した上で、机の中、脇の椅子または床の上に置くこと。
- ・携帯電話等は必ず電源を切った状態（マナーモード不可）で鞆等にしまうこと。また、携帯電話等を時計や電卓の代わりに使用してはならない。
- ・解答用紙や計算用紙は所定の枚数を超えて取ってはならない。また、答案を提出せずに持ち帰ってはならない。
- ・試験監督者並びに科目担当教員の試験に関する指示に従うこと。明らかに試験に支障を来す行為は行ってはならない。